

福島県建築関係工事特記仕様書【R6年1月版】

I 工事概要

1 工事名称

2 工事場所

_____ 地内

3 建物概要

Table with 6 columns: 建物名称, 構造, 階数, 延面積 (㎡), 消防法施行令別表第1区分, 備考

※詳細は工事概要による。

4 電気設備工事概要

(本工事における工事種目ごとの概要を示すもので仕様を規定するものではない。○印を付けたものが該当項目となる)

Table with 2 columns: 受電設備, 電力貯蔵設備, 発電設備, 中央監視制御設備

5 機械設備工事概要

(本工事における工事種目ごとの概要を示すもので仕様を規定するものではない。○印を付けたものが該当項目となる)

Table with 2 columns: 空気調和方式, 主要熱源機器, 換気設備, 排風設備, 自動制御設備, 給水設備, 排水設備, 消火設備, ガス設備

II 工事仕様

1 図面及び本特記仕様書に記載無き事項は、次による。

- ※「福島県建築関係工事共通仕様書」(福島県土木部)
※「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(令和4年版)
※「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)」(令和4年版)
※「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)」(令和4年版)
※「建築工事標準仕様書」(令和4年版)
※「公共建築設備工事標準仕様書(電気設備工事編)」(令和4年版)
※「公共建築設備工事標準仕様書(機械設備工事編)」(令和4年版)
※「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)」(令和4年版)
※「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)」(令和4年版)
※「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)」(令和4年版)
※「公共建築木造工事標準仕様書」(令和4年版)
※「建築物解体工事共通仕様書」(令和4年版)
なお、公共住宅建設にあっては、次を併せて適用する。
※「公共住宅建設工事共通仕様書(令和元年度版)」(公共住宅事業者等連絡協議会編纂)

2 項目は、番号の前に○印、または番号に○印の付いたものを適用する。適用しない項目等は斜線、・印、または無印とする。

3 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。○印と※印の付いた場合は、両方を適用する。※印を適用しない場合は、・に替えること。

4 形状寸法の単位は、特記した場合を除きミリメートルとする。

5 各章の特記事項欄にある【異: 】と表示されているものは、「建築関係工事共通仕様書」を示し、()書きは「公共建築工事標準仕様書」、()書きは「公共建築改修工事標準仕様書」の章・節・項番号である。

6 本特記仕様書に選択項目がない場合は、空欄等に仕様を記載する。

項 目 特 記 事 項

1 一般共通事項

○ 1 適用基準等
・ 共通仕様書(土木工事編) (福島県土木部)
・ 建築工事、電気設備工事、機械設備工事、建築改修工事監理指針 (国土交通省大臣官房官庁官制部監修)
・ 土木公共建築等エネルギー効率化推進指針 (適用工種 ・ 全工種 ・ 一部工種 (JASS))
・ 建築工事標準仕様書・同解説(日本建築学会)
・ 建築関係工事における週休2日促進工事執行要領 ※ 建築・設備工事における入札時積算数量活用方式執行要領
・ 工事標準チェックリスト(福島県土木部) ※ 建築関係工事における情報共有システムの運用
・ 建設キャリアアップシステム活用工事実施要領

○ 2 施工条件
・ 下記以外は図示等による。
(1) 工事車両の駐車場 (※ 構内 ・ ())
(2) 資材置き場 (※ 構内 ・ ())
(3) 建設発生土(埋戻し、盛り土用)の仮置き場 (※ 構内 ・ ())

○ 3 工事実績データの作成、登録
工事請負代金が500万円以上の場合には適用する。

○ 4 技能士
※ 適用する ・ 適用しない

Table with 3 columns: 適用工事種別, 作業の種類, 等級区分

※作業数量が少量の場合には、適用の有無について監督員と協議することができる。

○ 5 イメージアップ
・ 適用する ※ 適用しない ・ 仮囲いの美化 ・ フラワーボックスの設置 ・ 夜間照明設備

○ 6 発生材の処理
・ 有価物 ()
・ 引き渡しを要するもの ()
・ 現地において再利用化を図るもの ()

Table with 3 columns: 建設副産物, 処理方法等, 備考

Table with 3 columns: 建設副産物, 処理方法, 積算上の施設名称(※1)

Table with 3 columns: 建設副産物, 処理方法, 積算上の施設名称(※1)

注:積算上の施設(※1)は積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。処理施設については、監督員の承諾を得ること。また、処理施設が積算上の施設と異なる場合でも設計変更の対象とはしない。

○ 7 監督員事務所
・ 設ける (規模: m2程度) ※ 設けない 備品については、監督員の指示による

○ 8 工事用表示板
※ 適用する ・ 適用しない (異:第1編 図1.3.1)

○ 9 施工履歴
※ 適用する (・ 設置は建築工事とする) ・ 適用しない (異:第1編 図1.3.3)

○ 10 色彩計画
※ 色彩計画あり (・ 図示 ・ 監督員との協議による) ・ 色彩計画無し

○ 11 使用材料等
使用材料の製造所、製品及び施工業者等は特記されたもの又は同等以上とする。ただし、同等以上とする場合は、監督員の承諾を受ける。また、「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」により評価された海外製造の建築材料・設備機材等についても同様扱いとする。

○ 12 特別な材料の工法
共通仕様書等に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受けて、当該製品の指定工法による。

○ 13 風荷重等
※ 建築基準法に基づき定められた風速 (V0) (m/sec)
※ 建築基準法に基づき定められた積雪荷重 ()
※ 地表面粗度区分 ・ I ・ II ・ III ・ IV

○ 14 記録報告
1) 報告時期
工事履行報告書は、下記により提出する。
※ 毎月1回 ・ 監督員の指示

Table with 2 columns: 内容, 工事履行報告書、工事別工程進捗表、主要材料搬入状況、当月の出発高状況、工事状況写真

○ 15 電子納品
電子成果品は、福島県電子納品ガイドライン(官制工事編)により納品を行う。
対象書類 (※ 工事写真 ・ 施工計画書 ・ 完成図 ・ その他 ())
※ 検査用機器(パソコン、モニター等)は、受注者が準備する。
原則モニターのサイズは、21～24インチ程度とし、解像度はアスペクト比16:9の場合1920×1080以上、アスペクト比16:10の場合1920×1200以上とする。
※ 工事写真のサムネイル一覧を提出する。

○ 16 完成時の提出書類
(1) 完成図書 (※ 提出する ・ 提出しない) ・ 黒表紙(金文字入) A4版(1部) ※ ハードファイルA4版(1部)
(2) 建築物の保全に関する書類 (※ 提出する ・ 提出しない) ハードファイルA4版(1部)
(3) 完成図 (※ 提出する ・ 提出しない) A2版、A3版2つ折り製本(各1部)
(4) CADデータ、PDPデータ(1式) (※ 提出する ・ 提出しない) (※CADデータ提出の場合には、オリジナルCADデータも提出のこと。) (※PDFデータとは、CADデータをPDF形式で保存したものを。)

○ 17 完成図(施工図及び施工計画書を除く)
第1編【総則】1.8.4(完成図その他)によるほか、下記による

Table with 2 columns: 種類, 記入内容

○ 18 設計CADデータ貸与
※ 有 ・ 無

○ 19 工事検査
提出写真
工事検査に際し、下記により写真を監督員に提出する。

Table with 5 columns: 検査前, 検査中, 竣工, 部室, 既済検査, 竣工検査(既済後)

※ 上記以外の必要写真は、監督員の指示による。
※ 撮影は福島県土木部制定「建築設備工事写真管理基準」による。

1 一般共通事項

○ 20 建設工事使用機械等
※ 建設工事による排出ガス対策型建設機械を使用すること。
※ 建設工事に伴う騒音振動対策技術指針に基づき、低騒音型建設機械を使用すること。
※ 建設機械等のアイドリングストップを実施し、その点検を行うこと。

○ 21 設計GL
※ 図示による。 BM ± ()

○ 22 既存部分等への処理
工事施工に際し、既存部分に汚染又は損傷した場合は監督員に報告するとともに承諾を受けて現状に準じて補修すること。

○ 23 他工事との取合い
工事区分 別表-1 による。
施工図 設備機器の設置、取合いなどが検討できる施工図を提出し、監督員の承諾を受けること。

○ 24 建築材料設備機器等
ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆又は規制対象外
本工事に使用する建築材料、設備機器等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。また、再生資源利用できるものを積極的に使用すること。

○ 25 電気工事士
電気工事士の適用除外となっている最大電力500kW以上の需要設備の工事においても、第1種電気工事士により施工を行う。

○ 26 火災保険等
(1) 火災保険 ※ 適用する (※ 保険期間:工期+14日 ・ 適用しない)
※ 加入時期 (・ 躯体及び建方完了時 ・ 着手日(現場施工に着手する日))
(2) 法定外の労災保険の付保
※ 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

○ 27 官公庁への手続き等
関係官庁、電力会社等への手続きは、すべて受注者がこれを代行し、これに要する費用は受注者の負担とする。ただし、特記ある事項は別途とする。

○ 28 概成工期
・ 総合運用調整を行う期間を要すること。
買付期間は、(・ 契約工期末の _____ 日) ()
・ 設備への電源供給開始時期は下記のとおりとする。なお、本受電後の電力基本料金は、 _____ 月分とする。
① 供給開始時期 (・ 契約工期末の _____ 日) ()
② 供給対象設備 (・ 熱源機器類 ・ 空調機和設備機器類 ・ ポンプ類 ・ 自動制御設備類) ()

○ 29 BELS申請書作成及び申請手続き
(1) 建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)の申請書作成及び申請手続き ・ 行う ・ 行わない
(2) 分棟発注の場合は、※ 建築 ()
(3) 分棟発注の場合は、申請書作成者へ申請に必要な書類を提出すること。
(4) 建築物にBELS表示を行う。
※ BELS表示は、申請書作成及び手続きを行う受注者が行う。
表示は、(材質:) (サイズ:) となる。

○ 30 週休2日促進工事
※ 本工事の発注方式は、発注者指定型である。
当初積算時に4週8休以上を確保する場合の補正を行っている。

○ 31 入札時積算数量活用方式
※ 本工事は「入札時積算数量活用方式」の対象工事である。
本方式では、入札時において発注者が入札時積算数量書を示し、入札参加者が入札時積算数量書に記載された積算数量を活用して入札に参加する場合において、工事種別契約締結後に生じた当該積算数量の乗換について、発注者及び受注者は、入札時積算数量書に基づき、積算数量に関する協議を行うことができる。

○ 32 情報共有システム
※ 本工事は、「情報共有システム」利用の対象工事である。

○ 33 遠隔臨場
※ 本工事は、「遠隔臨場」利用の対象工事である。

○ 34 建設キャリアアップシステム(CCUS)
(1) 本工事は、「福島県土木部発注工事等における建設キャリアアップシステム活用工事実施要領」の対象工事である。
(2) 受注者は実施要領に定める事項について遵守しなければならない。
(3) 本工事の発注方式は(・ 受注者希望型 ・ 発注者指定型)である。

○ 35 その他
本工事の施工にあたって資機材及び労働者の調達に時間を要することが判明し、受注者から協議があった場合は、工事の一時中止及び工期の変更について検討し、決定するものとする。

2 仮設工事

○ 1 仮囲い
・ 波形鉄板 ※ 万能板 ※ 単管+シート張り
・ キャスターゲート ・ シートゲート ()
※ シート張り ・ 金アミ ・ ()

○ 2 危険防止
・ 本工事 (※ 内部足場 ※ 外部足場 ・ 基礎足場 ・ コンクリート打設足場)
・ なお、本工事で設置した足場、機橋、作業橋台の類は、無償で別契約の関係受注者等に使用させること。
・ 別途 (別契約の関係受注者が設置した足場、機橋、作業橋台の類は、無償で使用できる。)

○ 3 足場
足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について(厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。

○ 4 工事用水
構内既存の施設 ・ 利用できる (※ 有償 ・ 無償) ※ 利用できない

○ 5 工事用電力
構内既存の施設 ・ 利用できる (※ 有償 ・ 無償) ※ 利用できない

○ 6 工事用進入路
・ 仮設道路造成 ()

○ 7 ベンチマーク
設置方法 ※ コンクリート杭 ・ 固定物 ()

○ 8 交通誘導警備員
※ 置く(計 人) ・ 置かない ・ 置く期間 ()
指定路線 ※ 該当無 ・ 該当有 (異:第1編 1.2.13)

○ 9 仮設備関係
仮設備の設置条件
使用期間及び借地条件 ※ 図面による ・ その他 () ・ 別途協議
転回数 () 回
兼用 ・ 有り (図面による) ※ 無し
仮設備の構造及び施工方法の指定
構造及び設計条件 ※ 図面による ・ その他 () ・ 別途協議
施工方法 ()
その他 ()

3 土工

○ 1 埋戻し及び盛土
種別 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 (3.2.3)(表3.2.1)

○ 2 建設発生土の処理
※ 搬出先名 ()
搬出先の所在地 (・ 市・郡 ・ 町・村 大字 字 地内)
搬出先での処理 (・ 敷きならし ※ たい積)
運搬距離 () km

※ 受注後、搬出や搬出費用に変更が必要が生じた場合は、協議により変更すること。協議時には、変更する搬出先が都市計画図(開発許可)、森林法(林地開発)、砂防法、急傾斜地崩壊防止法および盛土規制法(改正宅地造成等規制法)などの諸法令違反ではないことわかる資料を監督員に提出すること。搬出後は、最終形状、数量計算書、写真及び運搬距離等の資料を監督員に提出すること。

・ 構内指示の場所 (・ 敷きならし ・ たい積)

※ 受注者は、建設発生土処理にあたり 第1編【建築工事】14.2【施工計画書】の記載内容に加えて、以下の事項を施工計画書に記載しなければならない。
(1) 処理方法(場所・形状等) (2) 排水計画 (3) 構内維持等

※ 受注者は、建設発生土受け地ごとの特定条件に応じて施工しなくてはならない。

※ 受注者は、雨水の排水処理等を含めて、搬入土砂の周囲への流出防止対策を講じなければならない。

1 地盤工事

1 支持地盤

- ・杭基礎
 - 支持地盤の種類及び位置(基礎ぐいの先端の位置含む)
 - ・ 図示による
- ・直接基礎
 - 支持地盤の種類及び位置(基礎底部の位置含む)
 - ・ 図示による
 - 長期設計支持力
 - ・ () kN/m2
 - ・ ()
- ・地盤の載荷試験
 - ・ 行う
 - 試験の位置、方法等は図示による

2 既製コンクリート杭地盤

種類

- ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)
- ・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)
- SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490
- ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭)
- ・ ()

試験掘

- ・あり 孔径はオーガー径とする 位置等は図示による
- 試験掘の施工は試験杭の施工に先立ち行う
- ・なし

寸法、継手、性能等(種別:種類、性能及び曲げ強度区分)

種類	杭径(mm)	杭長(mm)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭				
本杭	上杭 中杭 下杭				

試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う ()

試験杭の位置、本数 ※最初の本 図示による

杭先端部形状

- ・開放形
- ・半開放形
- ・閉そく形
- ・ ()

施工方法

- ・打込み工法(油圧ハンマー・ディーゼルハンマー)
- ・プレボーリングの併用
- ・ 行う
- 掘削深さ及び径
 - ・ 図示による
 - ・ 行わない
- 打込杭推定支持力の算定
 - ・ 図示による
- 杭の精度
 - 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ()
 - 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ()
- ・セメントミルク工法
- アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
 - ・ 1.5m程度 ()
- 杭の支持地盤への根入れ深さ
 - ・ 1.0m以上 ()
- 杭の精度
 - 水平方向の位置 ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ()
 - 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ()
- ・特定埋込杭工法
 - ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式で α=250を採用できる工法 図示による
 - ・上記以外の特定埋込杭工法 図示による

工法

- ・プレボーリング拡大根固め工法
- ・中掘り拡大根固め工法
- ・ ()
- 杭周固定液
 - ・使用する
 - ・使用しない

杭の精度

- 水平方向の位置 ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ()
- 杭の傾斜 ・ 1/100以内 ()

杭継手工法

- ・アーク溶接継手
 - ・ 標仕 4.3.6による
 - 溶接材料
 - ・ 標仕 7.2.5(1)(2)による
 - ・ 標仕 7.2.5(1)(2)以外()
- ・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
 - 工法 ※ 審査(評定又は大臣認定)を受けた工法
 - ・ ()
 - 検査 ※ 審査(評定又は大臣認定)により定められた項目
 - ・ ()
 - 施工 ※ 審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による
 - ・ ()

杭頭処理

- ※【県:第2編 4.3.8】による ()

杭頭補強用コンクリート型枠

- ※ 鋼製型枠 ()

杭頭補強

- ※【県:第2編 図4.3.1~4.3.2】による 図示による

3 鋼杭地盤

寸法、継手、性能等 (4.2.2)(4.4.3)

種類	杭径(mm)	杭長(mm)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭				
本杭	上杭 中杭 下杭				

1 地盤工事

試験杭 (4.2.2)

- 試験杭の位置、本数及び寸法
- ・ 図示による

杭の材料 (4.4.3)

- ・ 図示による

溶接材料

- ・標準仕様書7.2.5による

施工方法

- ・標準仕様書4.3.5による

杭の精度 (4.4.4)

- ・水平方向の位置ずれ
- ・ 杭径の1/4以内かつ100mm以下
- ・ 杭の傾斜
- ・ 1/100以内
- ・ 評定条件又は設定条件による

杭の現場継手 (4.4.5)

- ・溶接継手 (4.4.3)(7.2.5)
- 形状
- ・JIS A 5525による
- 溶接材料
 - ・ 標仕 7.2.5(1)(2)による
 - ・ 図示による
- 溶接部の確認方法
 - ・ 標仕 7.6.10による
- 抜き取り率
 - ・ 全数
- ・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
 - 工法
 - ※ 審査(評定又は大臣認定)を受けた工法
 - 検査
 - ※ 審査(評定又は大臣認定)により定められた項目
 - 施工
 - ※ 審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による

杭頭の処理(切断方法) (4.4.6)

- ・処理しない(切断しない)
- ・処理する
- 処理方法(切断及び補強方法)
- ・ 図示による

杭頭の中詰め材料

- ・基礎のコンクリートと同調合のもの

4 場所打ちコンクリート杭地盤

杭径、長さ、仕様等

- ・ 図示による
- ・ ()

材料その他

- 帯筋 ・ 図示による
- 鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 図示による
- セメントの種類
 - ※ 高炉セメントB種 ()
 - (4.5.4) (6.3.1)
- コンクリートの種別 (4.5.4) (表4.5.1)
 - ・ A種
 - ・ B種
 - ・ 審査(評定又は大臣認定)された内容による
- コンクリートの設計基準強度 () N/mm2 (4.5.4~6)
- 構造体強度補正值(S) (4.5.4)
 - ・ 3N/mm2
 - ・ 審査(評定又は大臣認定)された内容による
 - ・ ()

掘削工法 (4.5.1) (4.5.5~6)

- ・アースドリル工法
- 安定液 ・使用する ・使用しない
- ・リバース工法
- ・オールケーシング工法
- 孔内の水張り ・行う ・行わない

併用する工法

- ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 図示による
- 鋼管巻き材料 ・SKK400 ・SKK490 ()
- ・拡底杭工法 図示による
- 安定液 ・使用する ・使用しない
- ・ ()

試験杭 (4.2.2) (4.5.5~6)

- 試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う ()
- 試験杭の位置、本数 ※最初の本 図示による

孔壁測定 (4.5.5~6)

- ・ 行う
- 測定方法、測定箇所は図示による
- ・ 行わない

杭の精度

- 水平方向の位置ずれ ・ 100mm以下 ()
- 杭の傾斜 ・ 1/200以内 ()

5 地盤改良

工法

- ・浅層混合処理工法
 - 適用範囲、仕様及び計測、試験は図示による
 - 長期設計支持力
 - ・ () kN/m2
 - ・ ()
- ・深層混合処理工法
 - 適用範囲、仕様及び計測、試験は図示による
 - 長期設計支持力
 - ・ () kN/m2
 - ・ ()

6 置換コンクリート地盤(ラップルコンクリート地盤)

形状、支持地盤、仕様

- ・ 図示による

長期設計支持力

- ・ () kN/m2
- ・ ()

セメントの種類 (6.3.1)

- ・高炉セメントB種 ()
- コンクリートの設計基準強度 () N/mm2
- 構造体強度補正值(S)=() N/mm2

1 地盤工事

7 液状化対策

工法 ・ ()

- 仕様、範囲、計測、試験等
- ・ 図示による

8 砂利地盤 (4.6.2)

材料

- ※ 再生クラッシュラン
- ・ 切込砂利及び切込砕石

厚さ、幅及び使用範囲 (4.6.3)

地盤	幅(mm)	厚さ(mm)
割り石	フーチング各外面より+150	・150
砂利(砕石)	フーチング各外面より+150	・60

9 捨てコンクリート (4.6.4) (6.14.1~3)

コンクリートの仕様

- ※無筋コンクリートによる ()
- (6.14.1~3)

セメントの種類 (6.3.2)

- ・高炉セメントB種 ()
- (6.3.2)

厚さ、幅及び使用範囲 (4.6.4)

部位	幅(mm)	厚さ(mm)
基礎	フーチング各外面より+100	※50
地中ばり	フーチング各外面より+100	※50

10 床下防湿層 (4.6.5)

施工範囲

- ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)
- ・ ()

材料

- ・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上
- ・ ()

防湿層の位置

- ・ 図示による ()

2 鉄筋工事

1 鉄筋の種類 (5.2.1) (表5.2.1)

種類の記号	呼び名(mm)	備考
・SD295	・D10	・D13
・SD345	・D10	・D13

2 溶接金網 (5.2.2)

形状等

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

3 鉄筋の継手 (5.3.4) (5.5.2)

継手方法等

部位	継手方法	呼び名
柱、梁の主筋	※ガス圧接	・機械式継手
耐力壁の鉄筋	※重ね継手	・
その他の鉄筋()	※重ね継手	・

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)

- ※ 図示による

継手位置図

- ※ 図示による

鉄筋の定着方法 (5.3.4)

- ※ 図示による

4 鉄筋の定着の方法及び長さ (5.3.4)

鉄筋の定着長さ

- ※ 図示による ()

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む) (5.3.5)

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)

- ※ 図示による ()

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無

- ・ 有り 適用箇所 ()
- ・ 無し 最小かぶり厚さ
- ・ 鉄筋径の1.5倍以上 ()
- ・ 無し ()

軽量コンクリートで土に接する部分

- ・ 無し ()
- ・ 有り 適用箇所 ()
- ・ 図示による ()

耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)

- ・ 無し ()
- ・ 有り 適用箇所 ()
- ・ 図示による ()

鉄筋相互のあき(特殊な鉄筋を除く) (5.3.5) (図5.3.6)

- ・ 図示による ()
- ・ ()

6 特殊な鉄筋継手

- ・機械式継手
 - 使用箇所 ()
 - ※ 図示による ()
 - 性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.5.2)
 - ・ A級 ()
 - 機械式継手の種類() (5.5.2)
 - 鉄筋相互のあき (5.3.5)
 - ・ 図示による ()
 - 品質の確認方法 ()
 - ・ 図示による ()
 - 不良となった継手の修正方法等 ()
 - ・ 図示による ()
- ・溶接継手
 - 使用箇所 ()
 - ※ 図示による ()
 - 性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.6.3)
 - ・ A級 ()
 - 溶接継手の工法() (5.6.3)
 - 鉄筋相互のあき (5.3.5)
 - ※ 図示による ()
 - 品質の確認方法 (5.6.3)
 - ※ 図示による ()
 - 不良となった継手の修正方法等 (5.6.3)
 - ※ 図示による ()

鉄筋工事	7 各部配筋	各部配筋 ※ 図示による ()	(5.3.7)	鉄骨工事	1 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3) ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(株)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める下記のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ S ・ H ・ M ・ R ・ J グレード ・ 監督員の承諾する工場(標仕 7.1.1 以外の適用範囲に限る。)	鉄骨工事	15 鉄骨の製作精度	※ 標仕 7.3.3による (7.3.3) 溶接ずれ及び食い違い ・ 溶接部はH12建告示1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること ・ 溶接ずれ及び食い違いはH12建告示1464号第二号イ(1)(2)に規定する ただし書きの計算確認有り。 ()	
	8 圧接完了後の試験	外観試験 ※ 行う (全数) 抜取試験 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験	(5.4.10)		2 施工管理技術者	・ 適用する (7.1.3~4) ・ 適用しない		16 鉄骨の仮組	仮組を行う範囲 ※ 図示による () (7.3.10) 確認方法、確認項目 ※ 図示による ()	
	9 帯筋	組立の形の種別 ※ 図示による			3 鋼材	材質等 (7.2.1) (表7.2.1) 種類の記号 適用箇所 規格 ※ 図示による() ※ JISによる ・ 大臣認定による ・ ※ 図示による() ※ JISによる ・ 大臣認定による ・ 有効細長比(圧縮材に限る) ※ 図示による ()		17 溶接技能者の技量付加試験	試験の要領及び試験を要する溶接箇所 ※ 図示による () (7.6.3)	
	10 最上階柱頭補強	補強方法 ※ 図示による			4 高力ボルト	ボルトの区分 (7.2.2) (7.3.2) (7.4.1~9) ※トルンA形高力ボルト ・ セットの種類 ・ 2種(S10T) () ・ JIS高力ボルト ・ セットの種類 ・ 2種(F10T) () 高力ボルトの径 ・ 図示による () ボルトの端部距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による () すべり係数試験 ※ 行わない (7.4.2) ※ 行う 試験方法等 ・ 図示による ()		18 溶接接合	開先形状 ※ 図示による () (7.6.4) スカロップの形状 ※ 図示による () (7.6.7) エンドタブの切除する部分 ※ 全て (7.6.7) ・ 見え掛り部となる部分 ・ 切除する部分なし () 溶接部の余盛り高さ () (7.6.7)	
	11 片持ちスラブの出隅部の補強配筋(出隅受け部分の補強筋を含む)	配筋方法 ※ 図示による			5 普通ボルト	ボルト及びナットの種類 ・ 標仕 表7.2.3による () (7.2.3) 座金 ・ 標仕 7.2.3(4)による () ボルトの径 ・ 図示による () ボルトの端部距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による () (7.2.3) (7.3.2)		19 現場溶接の有無	・ 無し ・ 有り 適用箇所 ・ 図示による ()	
	12 壁開口部の補強	一般壁 ※ 図示による 耐震壁 ※ 図示による			6 溶融亜鉛めっき高力ボルト	セットの種類 (7.2.2) (7.12.3~4) ・ 1種(F8T相当) () 溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ・ 図示による () 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ※ 審査(評定又は大臣認定)を受けた内容による (7.3.8) ボルトの端部距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による () 摩滅面の処理 ・ プラスト処理(表面粗度50µmRz以上) ・ ()		20 入熱、バス間温度溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・ 図示による () 適用箇所 ・ 図示による () ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部	
	13 梁貫通孔の補強	補強形式 ※ 図示による 配筋種別 ※ 図示による 梁貫通孔径(部材記号含む)及び配筋種別リスト ※ 図示による			7 アンカーボルト	適用 (7.2.4) (表7.2.3) (7.10.3) ・ 構造用アンカーボルト ・ セットの種類 ・ JSS II 13-2004 ABR400 ・ JSS II 13-2004 ABR490 ・ 形状、寸法 ・ 図示による () ・ 建方用アンカーボルト 材質 ・ SS400 () アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度 ・ 標仕 表7.2.3による () 形状、寸法 ・ 図示による ()		21 溶接部の試験	完全溶込み部の超音波探傷試験 (7.6.12) (表7.6.2~4) ・ 行わない ※ 行う ・ 工事現場溶接の場合 ・ 全数検査 ・ 抜取検査 AOQL(%) ・ 4.0 ・ 2.5 検査水準 第6水準 ・ 工事現場溶接の場合 ・ 全数検査 ・ 計数連続生産型抜取検査 AOQL(%) (・ 4.0 ・ 2.5)	
	14 基礎梁主筋の継手	※ 図示による			8 溶接材料	溶接材料 (7.2.5) 溶接材料 7.2.5(1)(2)による。 ※ 標仕 7.2.5(1)(2)以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示による ()		22 錆止め塗装	塗料の種類 (7.8.4) (18.3.2) ・ 鉄鋼面の錆止め塗料 屋外 ・ 標仕 18.3.2 表18.3.1()種 () ・ () 屋内 ・ 標仕 18.3.2 表18.3.1()種 () ・ () 亜鉛めっき鉄鋼面の錆止め塗料 ・ 標仕 18.3.2 表18.3.2()種 () ・ () 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限り) ・ 標仕 18.3.2 表18.3.1()種 () ・ () 耐火被覆材の接着する面への塗装 ・ 行わない ・ 行う 適用箇所 ・ 図示による () 塗料の種類 ・ 標仕 18.3.2 表18.3.1()種 () ・ 標仕 18.3.2 表18.3.2()種 ()	
	15 機械吊上げ用フック	種別 ※ 図示による			9 ターンバックル	種類 (7.2.6) ・ 建築用ターンバックル胴 ・ 割棒式 () ・ 建築用ターンバックルボルト ・ 羽子板ボルト () ねじの呼び ・ 図示による ()		23 耐火被覆	種別 (7.9.2~7) 種別 材料・工法 適用箇所(部位・部分) ・ 耐火材吹付け ・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式ロックウール ・ ・ ・ 耐火板張り ・ 繊維混入型イソカルシウム板 ・ ・ 耐火材巻付け ・ ・ ラス張りモルタル塗り 性能 性能 適用箇所(部位・部分) ・ 30分耐火 ・ 1時間耐火 ・ 2時間耐火 ・ 3時間耐火	
	コンクリート工事	1 コンクリートの種類及び強度	普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2) 設計基準強度 (Fc) N/mm ² 種別 ・ 18 ・ 21 ・ 24 ・ 27 普通コンクリート 部位 軽量コンクリート 部位 上記には補正値Sは含まれない 軽量コンクリートの設計基準強度 (6.2.2) 設計基準強度 (N/mm ²) 適用箇所 ・ 24 ・ スラブの値(単位:cm) (6.2.4) (表6.2.2) 打込み箇所 基礎、基礎梁 土間スラブ 柱、梁、スラブ、壁 所要スラブ 15、18 18			10 デッキプレート		材質、形状及び寸法 (7.2.7) ・ 構造床 ・ 合成スラブ ・ 床型枠用 ・ 開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む。) ・ 図示による () デッキプレートを鉄骨部材に溶接する場合の工法(合成スラブ除く) (7.7.8) ・ アークスポット溶接又は隅肉溶接 () デッキプレートを鉄骨部材に溶接する場合の工法(合成スラブ) ・ 焼抜き検査 ・ スタッド () 耐火認定 ・ 有り 耐火時間 ・ 図示による () ・ 無し	24 アンカーボルトの保持及び埋込み工法	建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4) (7.10.3) (表7.10.1) 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 構造用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 ・ 図示による () 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3) (表7.10.2) ※ 標仕 表7.10.2 (※A種[モルタル厚さ50]・B種[モルタル厚さ30])による
	2 レディーミクストコンクリートの類別	類別 ※ I類 ・ II類 (6.2.1) (表6.2.1)			11 レール及びその付属品	形状及び寸法等 ・ 図示による ()		25 軽量形鋼構造	接合部(ボルト接合の場合) (7.11.2) ・ 普通ボルト接合 ()	
3 セメント	種類 (6.3.1) (表6.3.1) ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする。 施工箇所() ・ 高炉セメントB種 () 施工箇所() ・ フライアッシュセメントB種 () 施工箇所() ・ ()		12 スタッド	材質、形状及び寸法 (7.2.8) ※ 頭付きスタッド JIS B 1198 ()	26 溶融亜鉛めっき(耐力上必要な部分)	種別等 (7.12.4) (表14.2.2) 亜鉛めっきの種類 材料 備考 A種 最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板 B種 最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板 C種 普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板 ※ 素地ごしちえは、JIS H 8641による 適用箇所 ※ 図示による ()				
4 骨材	アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1) ・ A ・ B		13 柱底均しモルタル	モルタルの種類 (7.2.9) ※ 無収縮モルタル () 無収縮モルタルの材料、調合等 材料、調合等 ※ 標仕 7.2.9(2)による () 品質及び試験方法 ※ 標仕 表7.2.5による ()	27 梁貫通孔の補強	補強方法 ・ 補強トラス法 () ・ () 適用箇所 ※ 図示による ()				
5 軽量コンクリート	種類 (6.10.1) (表6.10.1) ・ 1種 ・ 2種		14 工作図	監督員による現寸検査 ・ 行わない (7.3.2) ・ 行う 増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上作成を行う。						
6 無筋コンクリート	適用箇所 (6.14.1) ・ 標仕 6.14.1(4)による箇所 ・ 標仕 6.14.1(4)以外の箇所 ・ 図示による () 設計基準強度 (6.14.1) ※ 18N/mm ² () スラブ ※ 15cm又は18cm ()									
7 ひび割れ発生目地打設目地	目地寸法 (6.6.4) (6.8.1) (9.7.3) ・ 標仕 9.7.3による () ・ 図示による () 間隔、位置、形状 ・ 図示による ()									
8 コンクリート仕上り	部材の位置及び断面寸法の許容差の標準値 (6.2.5) (表6.2.3) ・ 標仕 表6.2.3による () 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5) (6.9.3) (表6.2.4) ※ コンクリートの打放し仕上げ種別と適用箇所は図示による									
9 打増し厚さ(打放し仕上げ部)	・ 打放し仕上げ(打上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む) (6.8.1) の打増し厚さ(外部に面する部分に限る) ・ 20mm () ・ () ・ 打放し仕上げ(打上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む)の打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・ () ・ () ・ 外壁タイル張りで、MCR工法又は目荒らし(高圧水洗)工法を行う場合は外部側に20mmの打増しを行う									
10 型枠	せき板の材料 (6.8.2) ・ 合板(国産材) () ・ () せき板の厚さ ・ 12mm () 断熱材の兼用 ・ 行う 適用箇所() ・ 行わない スリーブの材質 ※ 標仕 6.8.2(9)(イ)及び表6.8.1による ()									
11 圧縮強度試験	公的機関でコンクリートの材齢28日圧縮強度試験を行う建築物・その部位等 建築物名 部位 ※ 躯体 ()									

 福島県建築関係工事特記仕様書	福島県〇〇建設事務所建築住宅課 電話〇〇〇-〇〇〇〇 FAX〇〇〇-〇〇〇〇 住所 〇〇市××町△△△1-1		建築士事務所名		工事名称	
	設計年: 令和〇〇年〇〇月		設計者氏名	印	図面名称	建築工事特記仕様書(2)

5 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	モジュール呼び寸法		化粧の有無	適用箇所	備考
長さ	高さ	長さ	高さ			
※ 空洞ブロック-16	・120 ※150	※400	※200	※無		
・型枠状ブロック-20				※無		

各部の配筋 ※図示による
化粧目地の有無 ・無 ・有

2 コンクリートブロック壁壁及び扉

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	モジュール呼び寸法		化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
長さ	高さ	長さ	高さ			
・空洞ブロック-08	・120 ※150	※400	※200	※無	・有	
・空洞ブロック-16	・120 ※150	※400	※200	※無	・有	

各部の配筋 ※図示による
化粧目地の有無 ・無 ・有

3 ALCパネル

パネルの種類	単位荷重(N/㎡)	厚さ	幅	耐火性能	表面加工	構法の種類
・外壁パネル		・100		・30分 ・1時間 ・2時間	・平 ・煮匠	・A種・B種
・間仕切壁パネル		・100		・30分 ・1時間 ・2時間	・平 ・煮匠	・C種・D種・E種
・屋根パネル		・100		・30分 ・1時間 ・2時間	・平	F種
・床パネル		・100		・30分 ・1時間 ・2時間		

外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取り付け部の目地幅(mm) ※20 ()
伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない

4 押出成形セメント板

パネルの種類	表面形状	厚さ	幅	耐火性能
・外壁パネル	・F ・ F-R ・D ・ D-R ・T ・ T-R	・50 ・60 ・100	・450 ・600	・30分 ・1時間 ・2時間
・間仕切壁パネル		・50 ・60 ・100	・450 ・600	・30分 ・1時間 ・2時間

パネルの相互の目地幅(mm) ※長辺 8以上 短辺 15以上 ()
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※15 ()
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

パネルに開口を設ける場合	開口の大きさ	
短辺	・	・ 図示
長辺	・	・ 図示
パネルを切り欠く場合	短辺	・ 図示
	長辺	・ 図示

6 防水工事

2 改質アスファルトシート防水

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

4 塗膜防水

5 ケイ酸系塗膜防水

6 脱気装置

7 シーリング

8 保証書の提出

9 屋根コンクリート防水

10 施工履歴

防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	
保護層	・設ける(※図示による)	・設けない	

防水層の地下、立上りコンクリート打放し仕上げ
※ 標仕 表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種
押え金物の材質及び形状
※ アルミニウム製 L=30×15×2.0mm程度
防水層の地下のモルタル塗り ・適用する(施工範囲 図示による) ・適用しない
屋根排水溝 ※ 図示による ()

防水層の種類 (9.3.2~4) (表9.3.1~3)

種別	施工箇所	断熱材	防湿層	備考
・AS-T1				
・AS-T2				
・AS-J1				
・AS-T3				
・AS-T4				
・ASI-T1	(材質) ※JIS A 9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの(厚さ) ※25mm		・設ける(改質アスファルト製造所の仕様による)	・設けない
・ASI-J1				

仕上塗料 ※カラー ・シルバー
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.3.1~表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.3.1~表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.3.1~表9.3.3による
押え金物
※ 改質アスファルト製造所の仕様による ()

防水層の種類 (9.4.2~4) (表9.4.1~2)

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材	仕上塗料	使用量
・S-F1				※カラー・シルバー	
・S-F2				※カラー・シルバー	
・S-M1				※カラー・シルバー	
・S-M2				※カラー・シルバー	
・S-M3				※カラー・シルバー	
・SI-F1			(材質) ※A種硬質ウレタンフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの(厚さ) ※25mm	※カラー・シルバー	
・SI-F2					
・SI-M1			(材質) ※A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はA種押出し法ポリスチレンフォーム保温材の保温板(厚さ) ※25mm	※カラー・シルバー	
・SI-M2		※発泡ポリスチレンシート			

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.4.1~表9.4.2による
防水下地かPCCコンクリート部材下地の処理
目地処理 ※図示による ()
入隅部の増張り(S-F1, SI-F1の場合) ※図示による ()

防水層の種類 (9.5.2~4) (表9.5.1~2)

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層	使用量
・X-1		※カラー ・シルバー		
・X-2		※カラー ・シルバー		
・Y-1	※地下外壁防水			
・Y-2	※屋内防水口			

防水層の種類 (9.6.2~4) (表9.6.1~2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-UI		・C-UP	

(9.2.3) (9.3.3) (9.5.3)

種別	種類	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4	※アスファルトルーフィング類製造所の仕様による	※アスファルトルーフィング類製造所の仕様による
DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4		
ASI-T1 ASI-J1		
X-1	※防水層の主材料の製造所の仕様による	・()ヶ所

下表以外は、標仕 表 9.7.1による (9.7.2~5) (表9.7.1)
ただし、外壁タイル接着剤塗りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

シーリング材の目地寸法 ※標仕 9.7.3(1)(7)~(9)による ()

保証書のある場合は提出すること。

クラック防止溶接用金網 (県:第2編 9.8.2)
※ 3.2*100*100 ()
屋根スラブの配筋 (県:第2編 9.8.3)
・ ()

※ 監督員と表示内容を協議し、指示の位置に取り付ける (県:第1編 1.3.7)

7 石工事

1 施工

2 石材等

3 外壁型式工法

4 内壁空積工法

5 乾式工法

6 床及び階段の石張り

7 アーチ、上げ真等の石張り

8 笠木、甲板等の石張り

9 製造所及び施工業者

石材の割付け ※標仕 10.1.3(1)(7)~(9)による
粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
・ 図示による (10.1.3~5)
・ ()
・ 図示による ()
・ 行う(適用箇所) ・すべて ()
・ 行わない ()

天然石 (10.2.1~3) (表10.2.1~2)

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形	・図示		・粗磨き ・本磨き	
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形	・図示			

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面	・図示		
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面	・図示		

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・300型 ・400型		
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・300型 ・400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材
※石材施工業者の指定する製品 ()

石裏面処理 ・適用する ・適用しない (10.2.2~3) (10.3.2~3)
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※流し筋工法 ・あと施工アンカー工法 ・あと施工アンカー、横筋横流し工法
受金物 材質 ※SS400 ()
形状及び寸法 ・ L=75×75×6(mm)の加工 L=100mm
・ L=75×75×6(mm)の加工 L=150mm

ドレインパイプの材質 ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ
・ ()

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ()
あと施工アンカーの材質及び寸法 ()
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ()
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※(11.1.3)による ・ 図示による
シーリング材の目地寸法 ※(9.7.3(1)(9))による
・ 図示による

受金物 材質 ※SS400 () (10.2.2) (10.4.2~3)
形状及び寸法 ・ L=75×75×6(mm)の加工 L=100mm
・ L=75×75×6(mm)の加工 L=150mm

石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※あと施工アンカー、横筋横流し工法 ・あと施工アンカー工法
アンカーの材質及び径 ※SS400 M ()
あと施工アンカーの材質及び寸法 ()
目地 一般目地 目地幅(mm) ※ ()
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※6mごと ・ 図示による
シーリング材の目地寸法 ※(9.7.3(1)(9))による
・ 図示による

取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式 (10.2.2) (10.5.2~3) (表10.2.4)
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
だば用の穴の位置 ※標仕 10.5.2(2)(7)による ・ 図示による
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(-1)・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない
アンカーの材質及び形状 ※ステンレス(SUS304) M10 ()
あと施工アンカーの材質及び寸法 ()
目地 目地幅(mm) ※8以上 ()
シーリング材 ・適用する(※標仕 9章7節による) ・ 図示) ・適用しない

床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない (10.6.2~3)
階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ・ 図示による ()
シーリング材 ・適用する ・適用しない

伸縮調整目地 位置 ※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6㎡程度ごと及び他部材との取り付け部
・ 図示による

取付け工法 ・外壁型式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法 (10.2.2) (10.7.2)
取付け金物 ※標仕 10.2.2(3)による ()
引金物、だば、かすがい及び受金物 ※標仕 10.2.2(1)による ()
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm(加工物)
・ ()
吊りボルト ※ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き
・ ()
・ 設けない
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
アンカーの材質及び径 ・SS400 M12 ・ステンレス(SUS304) M10 ()
あと施工アンカーの材質及び寸法 ()
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部 ・ 図示

取付け工法 ・外壁型式工法 ・乾式工法 (10.2.2) (10.7.3)
取付け金物 ※標仕 10.2.2(3)による ()
引金物、だば、かすがい及び受金物 ※標仕 10.2.2(1)による ()
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代 ※標仕 10.5.3(2)による ()
石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない
アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS304) M10 ()
あと施工アンカーの材質及び寸法 ()

監督員の承諾による。

8

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

3 接着剤による陶磁器質タイル張り

4 陶磁器質タイル型枠先付け

5 階段滑り止め

位置 ※標仕 表11.1.1による ・図示による (11.1.3)(表11.1.1)

タイルの形状、寸法等 (11.2.2)(11.2.2~8)

施工箇所	主な用途による区分(JIS)	形状/寸法	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	再生材の適用	耐凍	備考
			I類 II類 III類	施す 無	有 無	標準 特	有 無	有 無	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行方 ※行わない
見本焼き ・行方 ※行わない
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ・MCR工法 ・目荒し工法(高圧洗浄) ・
壁タイル張りの工法
外装タイル ※密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

既製鋼合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
(品質・性能・試験方法) 建築材料等品質性能表による

タイルの形状、寸法等 (11.3.2~8)

施工箇所	主な用途による区分(JIS)	形状/寸法	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	再生材の適用	耐凍	備考
			I類 II類 III類	施す 無	有 無	標準 特	有 無	有 無	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行方 ※行わない
見本焼き ・行方 ※行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ()
外装タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ()
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ()
伸縮調整目地 ※変成シリコン系シーリング材 ()
その他の目地 ※変成シリコン系シーリング材 ()
モルタル塗りをコンクリート素地面の処理 ・MCR工法 ・目荒し工法(高圧洗浄) ・ ()

タイル型枠先付けの種類

種 別	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種類
・タイルシート法	・小ロタイル	※ 標仕 6.8.2(2)(イ)
・目地挿法	・二丁掛けタイル	・金属製タイル先付け用パネル
・桟木法	大形タイル	

※磁器製() ・ ()

9

木工事

4 造作用単板積層材

5 床張り用合板等

6 接着剤

7 防蟻・防蟻

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ	含水率	備考
						※A種・B種	

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 (12.2.1)

施工箇所	厚さ	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	備考
		・有り(加工 ・天然木加工・塗装加工)	・適用する	※14%以下	
		・無し(等級:)	・適用しない		

「集成材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	備考
		・有り(加工 ・天然木加工・塗装加工)	・適用する	※14%以下	
		・無し()	・適用しない		

・普通合板 (12.2.1)

施工	厚さ	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	難燃処理	防火処理	備考
	※5.5	・ラワン	※1類	広葉樹	・適用する	・適用する	・適用する	
		・なし	※2類	針葉樹	・適用しない	・適用しない	・適用しない	
				※C-D以上				

・構造用合板

施工	厚さ	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数	防虫処理	強度等級	備考
	※12	※2級以上		※1類	※C-D以上		・適用する	・適用する	
		・1級		・特類			・適用しない	・適用しない	

・パーティクルボード

施工箇所	厚さ	裏裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※15		※13タイプロ	※P又はMロ	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ	等級
		・1級
		・2級
		・3級
		・4級

接着剤に含まれる可塑剤は、難燃性のものとする。 (12.2.2~3)
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ()

・防蟻、防蟻処理が必要な樹種による製材及び集成材 (12.3.1~2)

適用部位: ()

・薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2・K3・K4
	・K2・K3・K4

・薬剤の塗布等による防蟻・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標仕12.3.1(イ)(b)①~④による
	※標仕12.3.1(イ)(b)⑤による
	※標仕12.3.1(イ)(b)⑥による

・ボード原料接着材への薬剤混入による防蟻・防蟻処理
適用部位 ()

10

木造工事

5) 接合金物等の材質

6) 製作制度

7) 表面仕上げ

8) アンカーボルト

9) 柱底均し仕上げ

10) 普通ボルト

11) ボルト孔

12) ラグスクリュー

13) ドリフトピン

14) ジベル

15) 錆止め塗装

16) 亜鉛めっき

17) 防火被覆材

18) 防火被覆処理

鋼材の材質 ※SS400 ・ SN400A ・ () ・ ()

※精度基準は次による

部位等 精度基準
短辺 製作寸法の±1.5mm以内
長辺 製作寸法の±1.5mm以内、かつ、±5mm以内
材長 工作寸法の±5mm以内
断面直角精度 直角とのひずみ±1/100mm

仕上げの程度 ・ A種 ※ B種

材質 ※SS400 ・ ()
寸法 ※図示 ・ ()
アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・ A種 ※ B種 ・ C種

柱底均しモルタルの厚さ ※30mm程度 ・ ()
柱底均しモルタルの工法 ・ A種 ※ B種

普通ボルトの材料等 ※【県:第2編 表12-2.4.5】による。 ・ ()
ボルトに用いる座金の寸法及び厚さ
※図示及び【県:第2編 表12-2.4.6】による。
ボルトが受ける応力の種類
※図示による。

ボルト孔の径
※【県:第2編 表12-2.4.7】及び【県:第2編 表12-2.4.8】による。
・ 集成材の場合 ()
・ 集成材の場合 ()

ラグスクリューの形状、寸法 ※図示 ・ ()

ドリフトピンの形状、寸法等 ※図示 ・ ()

ジベルの種類及び材質 種類 () 材質 ()
ジベルの形状、寸法等 ※図示 ・ ()

錆止め塗装による防蟻処理を行う構造物及び接合具等
※見え掛りとなるすべての構造物及び接合具等
錆止め塗装の種類 ・ A種 ※ B種

亜鉛めっきによる防蟻処理を行う材料等
※すべての構造物及び接合具等
()
亜鉛めっきの種類 ※2種HDZ55 ・ 2種HDZ45 ・ 2種HDZ35

防火被覆材 ・ 厚さ25mm以上の木材 ・ 厚さ15mm以上の強化セッコウボード
・ 厚さ12mm以上のけい酸カルシウム板 ()

ボルト、ドリフトピン等の防火被覆処理 ・ 行方 ・ 行わない

9

木工事

1 表面仕上げ

2 製材

3 造作用集成材

表面仕上げの種類 (12.1.4)

表面仕上げの種類	適用箇所
・ A種	
※ B種	
・ C種	
・	

「製材の日本農林規格」による下地用製材 (12.2.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	備考
			※2級		※A種・B種	
			※2級			

「製材の日本農林規格」による造作用製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	備考
			※1等		※A種・B種	
			※1等			

「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	備考
			※1等		※A種・B種	
			※1等			

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法	造作材の材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	備考
			()	・適用する	・適用する	※A種・B種	
			造作材の場合(※A種・B種)	・適用しない	・適用しない		

・代用樹種を使用できない箇所 ()

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 (12.2.1)

施工箇所	樹種	寸法	見付け材面の等級	備考
			※1等	・2等

「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法	見付け材面の等級	備考
				※1等	・2等

「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法	化粧薄板の厚さ(mm)	備考

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法	見付け材面の品質	含水率	備考
				※A種・B種	

「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	備考
						※A種・B種	

10

木造工事

1 軸組構法工事

1) 木材

2) 工法

2 大断面集成材工事

1) 大断面集成材の製作工法

2) 施工管理技術者

3) 工作図

4) 大断面集成材

樹種名、種類、等級、寸法等
※【県:第2編 表12-2.3.6】の規定による
()
代用樹種を使用しない箇所
()

用材の工法
※【県:第2編 表12-2.3.7】の規定による
()
()

軸組の工法
※【県:第2編 表12-2.3.8】の規定による
()

構造用面材
※【県:第2編 表12-2.3.11~表12-2.3.14】の規定による
()
()
()
()

製作工場
※監督員の承諾する工場
()

施工管理技術者の設置 ・適用する ・適用しない

床書き原寸図 ・作成する ・作成しない

大断面集成材の品質等
強度等級は、次による
構成するひき板の品質等による区分

JASによる強度等級等

・ E135-F375	・ E120-F330	・ E105-F300
・ E95-F270	・ E85-F255	・ E75-F240
・ E65-F225	()	()
・ E125-F360	・ E110-F315	・ E100-F285
・ E90-F255	・ E30-F240	・ E70-F225
・ E60-F210	()	()

・ 対象具等級集成材 ()
・ 非対象具等級集成材 ()
・ 国土交通大臣が認定したもの ()

断面の品質 ※2種 ・ 3種
接着性能 ・ 使用薬液1 ・ 使用薬液2
樹種 ・ べいまつ ・ からまつ ・ すぎ ・ () ・ ()

11

屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

2 折板葺

3 とい

施工箇所 板及びコイルの種類 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 厚さ 屋根葺形式 備考 (13.2.2~3)

	※JIS G 3322の屋根用コイル(CGLCCR-20-AZ150)			・心木なし瓦葺葺 ・立平葺・蟻掛葺 ・横葺	
--	-------------------------------------	--	--	-----------------------------	--

下葺材料 ※アスファルトルーフィング 940
・ 改質アスファルトルーフィング下葺材
(一一般タイプ・複層材タイプ・粘着層付タイプ)
曹止め ※設置する(図示) ・ 設置しない

施工箇所 形式 山高、山ピッチによる区分 山高 山ピッチ 耐力による区分 材料による区分 厚さ 軒先面戸板 耐火性能 (13.2.2)(13.3.2~3)(表13.2.1)

	・重ね形 ・はげ形 ・かん合形	()種	※鋼板製 ・アルミニウム合金板製		・有りE類 ・30分 ・無し
--	-----------------------	------	---------------------	--	----------------------

材料 ※JIS G 3322の屋根用コイル(CGLCCR-20-AZ150)
()
断熱材 ・ 有り(種別: 厚さ(mm): 防火性能: 時間)
・ 無し

といの材質 (13.5.2~3)(表13.5.1)

種別	材質	径	施工箇所	備考
たてどい	・硬質ポリ塩化ビニル管 ・配管用鋼管 ・ステンレス鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管(カラー) ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 □G			SUS304、厚2
軒どい				

ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ()
鋼管製といの防蟻巻き ・ 適用する(工法:※標仕 表13.5.4による) ()
・ 適用しない

とい受金物 ※ステンレス製 ・ 鋼製(亜鉛めっき) (13.5.2)(表13.5.2)

ルーパドレン

種別	施工箇所
・ろく屋根用(・縦型・横型)	
・バルコニー用	
・バルコニー中継用	

12 金属工事	1	あと施工アンカーの確認試験 (14.1.3(1))による確認試験を行う。 (14.1.3)		14 建具工事	1	アルミニウム製建具 (16.2.2)(16.2.4)(16.2.5)(表16.2.1) 性能等級 外部に面する建具 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級() ・ 適用しない 断熱ドアセット、断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級() ・ 適用しない 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追従性の等級() ・ 適用しない 枠の見込み寸法 ・ 建具表による 表面処理 外部に面する建具 ・ BA-1種 ・ BA-2種 ・ BB-1種 ・ BB-2種 ・ () 皮膚等の種類(※標仕表14.2.1による) 着色() 屋内の建具 ・ BC-1種 ・ BC-2種 ・ () 皮膚等の種類(※標仕表14.2.1による) 着色() 結露水の処理方法 ※ 図示による () 水切り板、ぜん板 ※ 図示による ()		14 建具工事	8	建具用金物 標準型建具 (16.4.6) ・ マスターキー ※ 製作する (※新規・既存にあわせる) ・ 製作しない ※ シリンダー箱錠 ※ レバーハンドル ※ ドアクローザー 標準型建具以外の建具 (16.8.2)(表16.8.1) ・ マスターキー ※ 製作する (※新規・既存にあわせる) ・ 製作しない ※ シリンダー箱錠 ※ レバーハンドル ・ 握り玉 ・ 本締り錠 ・ 空錠 ※ レバーハンドル ・ 握り玉 グレン錠 ・ 点検口錠(平面ハンドル錠) ・ 非常錠 ・ () ・ ビボットヒンジ ・ フロアヒンジ ・ ヒンジクローザー(丁番形) ・ ヒンジクローザー(ビボット形) ・ ドアクローザー ・ 閉鎖順位調整器 ・ 押棒、押板 ・ アームストッパー ・ クレセント ・ 押棒オペレーター ・ レール 形式 (16.8.4) ・ 30本 (個) ・ 120本 (個) ・ 60本 (個) ・ ()本 (個) 鋼製既製品とし、監督員の承認による。
	2	鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)(表14.2.2) 表面処理方法 種別 施工箇所(手すり、タラップ以外) 溶融亜鉛めっき ・ A種 ・ B種 ・ C種 電気亜鉛めっき ・ D種 ・ E種 ・ F種			2	網戸等 (16.2.3) 種類 材質 線径 網目 ・ 防虫網 ※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製 ・ 防鳥網 ステンレス(SUS304)線材 1.5mm 網目寸法15mm			9	鍵箱 形式 (16.8.4) ・ 30本 (個) ・ 120本 (個) ・ 60本 (個) ・ ()本 (個) 鋼製既製品とし、監督員の承認による。
	3	軽量鉄骨天井下地 野縁等の種類 (14.4.2~4) ・ 屋外の軒天井・19形 屋内 (※19形・25形) ・ 屋外の軒天井、ピロティ天井等 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※ 適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法) ・ 適用しない 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ※ 900程度 () 周辺部の端からの間隔 ※ 図示による () 野縁の間隔 ※ 300程度 () ・ 補強 ※ 図示による () ・ 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※ 図示による () ・ 天井のふとところが1.5m以上3.0m以下の場合 補強方法 ※ 標仕 14.4.4(8)(7)(f)による () ・ 天井のふとところが3.0mを超える場合 補強方法 ※ 図示による () ・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※ 図示による () 補強方法 ※ 図示による ()			3	樹脂製建具 (16.3.2) 性能等級 外部に面する建具 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級(・T-1・T-2) ・ 適用しない 断熱ドアセット、断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級(・H-4・H-5・H-6) ・ 適用しない 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追従性の等級() ・ 適用しない			10	自動ドア開閉機構 (16.9.2~3) 自動ドア 性能 防錆 センサーの種類 凍結防止 ・ SSLD-1 ※ 標仕 ・ SSLD-2 表16.9.1 ・ DSLD-1 による ・ DSLD-2 () ・ 図示による () ・ マットスイッチ ・ 適用する ・ 適用しない ※ 光線(反射)スイッチ ※ 熱線スイッチ ※ 音波スイッチ ※ 光電スイッチ ※ 電波スイッチ ※ タッチスイッチ ※ 押しボタンスイッチ ※ ペダルスイッチ ※ 多機能トイレスイッチ ・ 行う(適用箇所は建具表による) ・ 行わない
	4	軽量鉄骨壁下地 スタッド、ランナーの種類 (14.5.3)(表14.5.1) (表14.5.1)によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※ 図示による ()			4	鋼製建具 (16.2.2)(16.4.2~4)(表16.4.2) 性能等級 簡易気密型 ・ 適用する ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級() ・ 適用しない 断熱ドアセット、断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級() ・ 適用しない 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追従性の等級() ・ 適用しない 鋼板 材料 めっき量 厚さ ・ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板) ※ Z12又はF12 ・ 表16.4.2による ・ JIS G 3317(溶融亜鉛5%アルミニウム合金めっき鋼板) ※ Y08			11	自閉式上吊り引戸装置 性能 ※ 標仕 表16.10.1による (16.10.2~3)(表16.10.1)
	5	金属成形板張り 材質 ・ アルミニウム ・ () 製法 ※ 押出し・プレス ・ ロール 寸法 板幅 ※ 100 () 板厚 ※ 1.0 () 形状 ・ スバンドレル形 ・ パネル形 表面処理 ・ B-1種 ・ C-1種 () 等 ・ B-2種 ・ C-2種 伸縮調整継手 ・ 設ける ・ 設けない			5	鋼製軽量建具 (16.2.2)(16.5.2~4) 性能等級 簡易気密型 ・ 適用する ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級() ・ 適用しない 断熱ドアセット、断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級() ・ 適用しない 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追従性の等級() ・ 適用しない 鋼板 ※ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 鋼板の厚さ ・ 標仕表16.5.1による 召合せ、縦小口包み板等の材質 ・ ステンレス鋼板 ※ 鋼板			12	重量シャッター (16.11.2~4)(表16.11.1) 種類 シャッターケース 耐風圧強度(N/m ²) 開閉形式 備考 ・ 一般重量 シャッター ・ 設ける ・ 80 ※ 上部電動式(手動併用) ・ 外壁用防火シャッター ※ 設ける ・ 120 ・ 上部手動式 ※ 危害防止機構(障害物感知装置(自動閉鎖型)) ・ 屋内用防火シャッター ・ 屋内用防煙シャッター スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板) ・ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 ※ Z12又はF12 () 電動式の場合の電源 ※ 三相200V0.75kw以下(過電流保護装置付) 工事範囲 一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次配線は本工事に含む。
	6	アルミニウム製笠木 部材の種類 ・ 250形 ・ 300形 ・ 350形 ・ 板折り曲げ形(本体幅 mm) 板厚(mm) () 表面処理 (14.7.2~3)(表14.2.1) 表面処理の種類 ※ 標仕 表14.2.1による () 被膜等の種類 ※ 標仕 表14.2.1による () 着色()			6	ステンレス製建具 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2~4) 性能等級 簡易気密型 ・ 適用する ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級() ・ 適用しない 断熱ドアセット、断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級() ・ 適用しない 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追従性の等級() ・ 適用しない 鋼板(屋外) ※ SUS430JIL, SUS443J1, SUS304 () 鋼板(屋内) ※ SUS430, SUS430JL, SUS443J1, SUS304 () 表面仕上げ ※ HL仕上げ ・ 鏡面仕上げ ステンレス鋼板の曲げ加工 (16.6.5) ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ(補強あり) 建具材の加工、組立時の含水率 ※ B種 () (16.7.2~4)			13	軽量シャッター (16.12.2~4) 開閉形式 シャッターケース 耐風圧強度(N/m ²) ※ 手動式 ※ 設ける ・ 50 ・ 上部電動式(手動併用) ・ 設けない ・ 65 ・ 80 スラットの材質 めっき量 ・ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板) ※ Z06又はF06 ・ JIS G 3322(塗装溶融5%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板) ※ AZ90 スラットの形状 ガイドレール・座金の材質 ※ インターロック形 ※ ステンレス(SUS304) ・ オーバーラッピング形 ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 電源 ※ 単相 100V(過電流保護装置付) 工事範囲 一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次配線は本工事に含む。 ※ 障害物感知装置(自動閉鎖型)

 福島県建築関係工事特記仕様書	福島県〇〇建設事務所建築住宅課 電話〇〇〇-〇〇〇〇 FAX〇〇〇-〇〇〇〇 住所 〇〇市××町△△△1-1		建築士事務所名	工事名称
	設計年:令和〇〇年〇〇月	設計者氏名	印	図面名称

14 オーバーヘッドドア

セクション材料による区分	耐風圧(N/㎡)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※ スチールタイプ ※ アルミニウムタイプ ※ ファイバーグラスタイプ	※ 125 ※ 100 ※ 75 ※ 50	※ バランス式 ※ チェーン式 ※ 電動式	※ スタンダード形 ※ ローヘッド形 ※ ハイリフト形 ※ パーチカル形	※ ステンレス鋼板(SUS304) ※ 溶融亜鉛めっき鋼板

15 ガラス

・ 合わせガラス (16.14.2)

品名	構成種類	性能
・ フロート合わせガラス	・ フロート板合わせガラス	・ I 類
・ 網入磨き合わせガラス	・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス	・ II-1類
・ 網入磨き、フロート板合わせガラス	・ 網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・ II-2類
・ 網入磨き、熱線吸収板合わせガラス		・ III類

注) 曲面合わせガラスの性能は I 類

・ 強化ガラス

材料板ガラスの種類	種類	性能
・ フロートガラス	・ フロート強化ガラス	・ I 類
・ 型板ガラス	・ 熱線吸収強化ガラス	・ III類
	・ 型板強化ガラス	

注) 曲面強化ガラスの性能は I 類

・ 熱線吸収板ガラス

品名	性能	色調
・ 熱線吸収フロート板ガラス	・ 1種	・ ()
・ 熱線吸収網入磨き板ガラス	・ 2種	

・ 複層ガラス

品名	断熱性	日射熱減へい性
・ 断熱複層ガラス	・ 1種 U1 ・ 2種 U2 ・ 3種 U-3-1	・ U-3-2
・ 日射熱減へい複層ガラス	・ 4種 E4 ・ 5種 E5	

・ 熱線反射ガラス (16.14.2) (16.14.4)

品名	色調	断熱性	耐久性	反射皮膜	映像調整
・ 熱線反射ガラス	・ ()	※ 1種	A種	・ 内面	・ 行う
・ 高性能熱線反射ガラス		・ 2種	・ A種 ・ B種	・ 外面	・ 行わない
		・ 3種	B種		

・ 倍強度ガラス

材料板ガラスの種類	色調
・ フロート倍強度ガラス	・ ()
・ 熱線吸収倍強度ガラス	

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.3) (図16.14.1)

留め材の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレインチャンネル形	※ 標仕 表16.14.1による ・ 図示による ・ ()
鋼製及び鋼製軽量ステンレス製	※ シーリング材 ・ ()	

ガラスブロック積み (16.14.5)

JIS A 5212によるもの又は評価名簿によるもの	表面形状	寸法	厚さ	色調	防火認定	備考
					・ なし ・ 防火設備	

16 ガラス用フィルム

・ ()

15 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

2 メタルカーテンウォール

カーテンウォールの材料 (17.2.2)

材料	規格	検査調整
※ アルミニウム製	※ 標仕 16.2.3による ・ ()	・ A-1種 ・ A-2種 皮膚の種類 (※標仕 表14.2.1による) 着色 ()
・ ステンレス		・ 行う ・ 行わない

製品及び取付位置の寸法許容差 ※ 標仕 表17.2.1~3による
ガラス溝の寸法、形状 ※ 製造所の仕様による

3 PCカーテンウォール

カーテンウォールの材料 (17.3.2~5)

コンクリート ※ 標仕 17.3.2(1) (ア) (イ) による
鉄筋 ※ 295A (・ D13 ・ D10)
補強鉄線の径(mm) ※ 3.2 ・ 4.0 ・ 5.0 ・ 6.0
配筋 ※ 図示による

先付けの材料 ・ サッシ枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上げ剤 ・ 磁器質タイル
・ 石材 (・ 花こう岩 ・ 大理石)

ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・ h=1~+2, W1及びW2=±1
製品及び取付位置の寸法許容差 ※ 標仕 表17.3.1~2による
・ ()

16 塗装工事

1 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆
・ 防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:)

2 素地ごしらえ (18.2.2~7)

下部面等	種別	塗料の種類
木部	不透明塗料塗りの場合 ※ A種・B種 透明塗りの場合 ※ B種・A種	
鉄鋼面	※ C種・A種・B種	
亜鉛めっき鋼面(注)	・ A種・B種	
モルタル面及びブラスター面	※ B種・A種	
コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面	※ B種・A種	
せつこうボード面及びその他ボード面	目地: 継目処理工法 ※ A種・B種 目地: 継目処理工法以外 ※ B種・A種	

注) 亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえの種別

種別	施工部位及び塗料種別
A 種	鋼製の建具の場合又は2溶形ポリウレタンエナメル塗料若しくは常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗料の場合
B 種	A種、C種以外
C 種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合

3 錆止め塗料塗り (18.3.2~3)

下部面等	工種の種別	塗料の種類
鉄鋼面	見え隠れ部分 ※ A種・B種 見え隠れ部分以外 ※ B種・A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具 ※ A種・B種・C種 鋼製建具以外 ※ C種・A種・B種	・ A種 ・ C種

4 塗装 (18.4.1~18.13.2)

塗装	種別	塗料の種類
・ 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外 ※ A種・B種 木部屋内 ※ B種・A種 鉄鋼面 ※ B種・A種 亜鉛めっき鋼面	※ 1種・2種 ※ 1種・2種 ※ 1種・2種 ※ 1種・2種
・ クリヤラッカー塗り(CL)	鉄鋼面	※ B種・A種
・ アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)	鉄鋼面	※ B種・A種
・ 耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	上塗り等級 () 級
	亜鉛めっき鋼面	上塗り等級 () 級
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・ A種・B種 ・ C種
	コンクリート面等	※ B種・A種
・ つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	屋内の鉄鋼面	※ B種・A種
・ 合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)	鉄鋼面	※ B種・A種
・ 合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)	鉄鋼面	※ B種・A種
・ ウレタン樹脂ワニス塗り(U)	鉄鋼面	※ B種・A種
・ ラッカーエナメル塗り(LE)	鉄鋼面	※ B種・A種
・ オイルステン塗り(OS)	鉄鋼面	※ B種・A種
・ 木材保護塗料塗り(WP)	木部	※ B種・A種

17 内装工事

1 接着剤

ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ (19.2.2)
接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

2 ビニル床シート (19.2.2~3)

種類	JIS記号	色柄	特殊機能	厚さ	工法
・ 発泡層のないもの (複層ビニル床シート)	※ FS	・ 無地 ・ マブル柄	・ 帯電防止 ・ 耐動過重性	※ 2.0	※ 熱溶接 ・ 突付け
・ 発泡層のあるもの		・ 無地 ・ 柄物	・ 防汚性 ・ 耐薬品性		

3 ビニル床タイル (19.2.2~3)

JIS記号	色柄	寸法	特殊機能	厚さ
・ FT (複層ビニル床タイル)	・ 無地 ・ 柄物	※ 300角 ・ 450角	・ 帯電防止 ・ 防汚性	※ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0
・ KT (コンポジションビニル床タイル)	・ 無地 ・ 柄物	・ 300角 ・ 450角	・ 帯電防止 ・ 防汚性	・ 2.0 ・ 3.0
・ FOA (複層ビニル床タイル)	・ 無地 ・ 柄物	・ 300角 ・ 450角	・ 帯電防止 ・ 防汚性	・ ()

4 ビニル幅木 (19.2.2)

材種	厚さ	高さ
※ 軟質・硬質・溶接	※ 2.0	※ 60・75・100

5 ゴム床タイル (19.2.2)

色柄	厚さ	寸法(mm)
・ ()	・ 3.0	・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0

6 カーペット敷き (19.3.2~3)

タイルカーペット	寸法	総厚さ(mm)	色柄	帯電性
・ 500角	・ 6.5	・ ()	※ 無地 ・ 柄物	※ 3kV以下 ・ その他

タイルカーペットの敷き方 平場 ※ 市松敷き ・ 模様流し
階段部分 ※ 模様流し ・ 市松敷き
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※ 図示) ・ 適用しない

7 合成樹脂塗床 (19.4.2~3) (表19.4.1~8)

種別	工法	仕上げの種類
・ 厚膜型塗床材 ・ 弾性ウレタン樹脂系塗床	・ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ	・ つや消し仕上げ
・ 厚膜型塗床材 ・ エポキシ樹脂系塗床	・ 薄膜流し展べ工法 ・ 厚膜流し展べ工法 ・ 樹脂モルタル工法	・ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ
・ 薄膜型塗床材		

17 内装工事

8 フローリング張り (19.5.2)

種類	工法	樹種	厚さ	大きさ	仕上げ
・ フローリングボード	・ 釘留め工法 (根太張り) ・ 釘留め工法 (直張り) ・ 接着工法	・ ぶな ※ なら	・ 15 ・ 12以上	板幅 ・ # 板長さ500以上	・ 塗装品 ・ 無塗装品
・ フローリングブロック	・ 接着工法 ・ モルタル埋込工法			※ 303角 ・ ()	
・ モザイクパーケット	接着工法			・ ()	

間伐材の適用 ・ 適用する ・ 適用しない

天然木化粧複合フローリング

工法	樹種	厚さ/大きさ(mm)	種別	防湿処理	塗装仕上げ
・ 釘留め工法 (根太張り) ・ 釘留め工法 (直張り) ・ 接着工法	・ なら	板厚 ・ 8以上 板幅 ・ 75以上 板長さ ・ 900以上	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ 適用する ・ 適用しない	・ 塗装品 ・ 無塗装品

接着剤工法の場合の緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ ・ 行う (施工箇所) ・ 行わない
※ ウレタン樹脂ワニス塗り
・ オイルステンの上、ワックス塗り
・ 生地のままワックス塗り

9 畳敷き (19.6.2) (表19.6.1)

種別 ・ A種・B種 ・ C種・D種 (畳床: ・ KT-)
下地の種類 ・ 標仕 表12.6.1による床組
・ ボリスチレンフォーム床下地 (ノンフロ)

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

10 せつこうボード (19.7.2~3) (表19.7.1)

種類	JIS記号	厚さ、規格等
・ 硬質木毛セメント板	HW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ()
・ 中質木毛セメント板	MW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ()
・ 普通木毛セメント板	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ()
・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21
・ 普通木片セメント板	NF	・ 30
・ けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2(無石綿) ※ 6 ・ 8
・ ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ (・ 9(不燃) ・ 12) ・ 凹凸タイプ (・ 12(不燃) ・ 15 ・ 19)
・ ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・ 12 ・ 15 ・ 25
・ グラスウール吸音ボード32K	GW-B	※ 25(ガラスクロス包) ・ ()
・ せつこうボード	GB-R	※ 12.5(不燃) ・ 15(不燃)
・ 不燃積層せつこうボード	GB-NC	9.5(不燃)化粧無(下張り用) 化粧有(トラバーチン模様)
・ シーリングせつこうボード	GB-S	12.5(不燃)
・ 強化せつこうボード	GB-F	※ 12.5(不燃) ・ 15(不燃)
・ せつこうラスボード	GB-L	9.5
・ 化粧せつこうボード(木目)	GB-D	12.5(不燃)幅440mm程度 模様 (・ 柾目 ・ 板目) 専用下地材有り
・ 化粧せつこうボード(トラバーチン模様)	GB-D	9.5(準不燃)
・ 普通合板		表面の材質 生地、透明塗料塗り (※ラワン程度) ・ 不透明塗料塗り (※シナ程度) ・ 板面の品質 () 厚さ(mm) () 接着の程度 () ・ 防虫処理 ・ 難燃処理 ・ 防湿処理
・ 天然木化粧合板		樹種名 () 接着の程度 (・ 1種 ・ 2種) 厚さ(mm) () ・ 防虫処理 ・ 難燃処理 ・ 防湿処理
・ 特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装 表面性能 ()タイプ 接着の種 (・ 1種 ・ 2種) 厚さ(mm) () ・ 防虫処理 ・ 難燃処理 ・ 防湿処理
・メラミン樹脂化粧版		JIS K 6903による (※1.2 ・ ())
・ ポリエステル樹脂化粧版		
・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12
・ 単板張りパーティクルボード		・ 無研磨版 ・ 研磨版 ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・ 化粧パーティクルボード		・ 単板オーバーレイ ・ 塗装 ・ プラスチックオーバーレイ ・ 10(難燃) ・ 12(難燃)
・ ハードボード(素地)	HB	・ 研磨版 (・ スタンダード ・ テンパード) ・ 内装用 ・ 外装用 ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7
・ ハードボード(化粧)		・ A級 (・ 天井仕上 ・ 内装仕上) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・ インシュレーションボード	IB	

せつこうボード等の下地は図示による
遮音シール材 ・ 適用する (・ シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド) ・ 適用しない

合板類の張付け ※ B種
せつこうボードの目地工法 ・ 仕上表による

17	11 壁紙張り	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>壁紙の種類</th> <th>防火種別</th> <th>商品名(程度)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 不燃 準不燃 不燃 準不燃 不燃 準不燃 不燃 準不燃 </td> <td></td> </tr> </table> <p>商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。</p> <p>素地ごしらの種別 (19.8.3)</p> <table border="1"> <tr> <td>モルタル及びプラスター面</td> <td>A種</td> <td>B種</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード面</td> <td>A種</td> <td>B種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート及びALC面</td> <td>A種</td> <td>B種</td> </tr> </table>	施工箇所	壁紙の種類	防火種別	商品名(程度)			<ul style="list-style-type: none"> 不燃 準不燃 不燃 準不燃 不燃 準不燃 不燃 準不燃 		モルタル及びプラスター面	A種	B種	せっこうボード面	A種	B種	コンクリート及びALC面	A種	B種	18	カーテン	<table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> <th>ひだの種類</th> <th>きり地の種類</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> シングル ダブル </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 片引き 引分け </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 手引き ひも引き 電動 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> フランスひだ 箱ひだ、つまひだ プレーンひだ、片ひだ </td> </tr> </table>	形式	開閉操作	ひだの種類	きり地の種類	<ul style="list-style-type: none"> シングル ダブル 	<ul style="list-style-type: none"> 片引き 引分け 	<ul style="list-style-type: none"> 手引き ひも引き 電動 	<ul style="list-style-type: none"> フランスひだ 箱ひだ、つまひだ プレーンひだ、片ひだ 	20	3 アスファルト舗装	<p>加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>一般地域</th> <th>密粒度アスファルト混合物 (13)</th> <th>寒冷地</th> <th>密粒度アスファルト混合物 (13F)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>細粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td></td> <td>細粒度キヤップアスファルト混合物 (13F)</td> </tr> </table> <p>シールコートの施工</p> <table border="1"> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table> <p>試験 アスファルト混合物等の抽出試験</p> <table border="1"> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	一般地域	密粒度アスファルト混合物 (13)	寒冷地	密粒度アスファルト混合物 (13F)		細粒度アスファルト混合物 (13)		細粒度キヤップアスファルト混合物 (13F)	行う	行わない	行う	行わない	行う	行わない	行う	行わない
		施工箇所	壁紙の種類	防火種別	商品名(程度)																																												
		<ul style="list-style-type: none"> 不燃 準不燃 不燃 準不燃 不燃 準不燃 不燃 準不燃 																																															
モルタル及びプラスター面	A種	B種																																															
せっこうボード面	A種	B種																																															
コンクリート及びALC面	A種	B種																																															
形式	開閉操作	ひだの種類	きり地の種類																																														
<ul style="list-style-type: none"> シングル ダブル 	<ul style="list-style-type: none"> 片引き 引分け 	<ul style="list-style-type: none"> 手引き ひも引き 電動 	<ul style="list-style-type: none"> フランスひだ 箱ひだ、つまひだ プレーンひだ、片ひだ 																																														
一般地域	密粒度アスファルト混合物 (13)	寒冷地	密粒度アスファルト混合物 (13F)																																														
	細粒度アスファルト混合物 (13)		細粒度キヤップアスファルト混合物 (13F)																																														
行う	行わない																																																
行う	行わない																																																
行う	行わない																																																
行う	行わない																																																
18	12 断熱材	<p>断熱材打込み工法 (19.9.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ピース法ポリスチレンフォーム保温材 ※ 押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 2種b ※ 3種b(設地部分) </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> A種硬質ウレタンフォーム保温材 フェノール保温材(3種2号を除く) </td> <td></td> </tr> </table> <p>断熱材現場発泡工法 (19.9.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> A種1 B種1 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 25 ※ 30 </td> <td>※ 図示による</td> </tr> </table>	種類	厚さ(mm)	<ul style="list-style-type: none"> ピース法ポリスチレンフォーム保温材 ※ 押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし) 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 2種b ※ 3種b(設地部分) 	<ul style="list-style-type: none"> A種硬質ウレタンフォーム保温材 フェノール保温材(3種2号を除く) 		種類	厚さ(mm)	施工箇所	<ul style="list-style-type: none"> A種1 B種1 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 25 ※ 30 	※ 図示による	19	カーテンレール	<p>材質 ※ アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成形材(アルマイト仕上げ) (20.2.14)</p> <p>形状 ※ 角型</p>	21	1 植栽地の確認等	<p>土壌の水素イオン濃度(pH)試験</p> <table border="1"> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table> <p>土壌改良材</p> <table border="1"> <tr> <td>適用する</td> <td>適用しない</td> </tr> </table> <p>※ 建設発生土の良質土</p> <table border="1"> <tr> <td>客土</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 適用する(施工範囲 図示による)</p> <table border="1"> <tr> <td>種類</td> <td>※ コウライ芝</td> <td>ノシバ</td> </tr> </table> <p>図示による</p> <p>※ 引渡し日から1年</p> <table border="1"> <tr> <td>()</td> <td></td> </tr> </table>	行う	行わない	行う	行わない	適用する	適用しない	客土		種類	※ コウライ芝	ノシバ	()																	
		種類	厚さ(mm)																																														
<ul style="list-style-type: none"> ピース法ポリスチレンフォーム保温材 ※ 押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし) 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 2種b ※ 3種b(設地部分) 																																																
<ul style="list-style-type: none"> A種硬質ウレタンフォーム保温材 フェノール保温材(3種2号を除く) 																																																	
種類	厚さ(mm)	施工箇所																																															
<ul style="list-style-type: none"> A種1 B種1 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 25 ※ 30 	※ 図示による																																															
行う	行わない																																																
行う	行わない																																																
適用する	適用しない																																																
客土																																																	
種類	※ コウライ芝	ノシバ																																															
()																																																	
18	1 フリーアクセスフロア	<p>構造形式 (20.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>寸法(mm)</th> <th>高さ(mm)</th> <th>耐震性能</th> <th>所定荷重(N)</th> <th>表面仕上げ材</th> <th>床パネルの材質</th> <th>構造材の材質</th> <th>配線取り出し</th> <th>パネル</th> <th>配線取り出し</th> <th>開口</th> <th>空調用吹き出し</th> <th>ローロード性能</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> パネル構造 溝構造 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 450角以上600角以下 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 1.0G ※ 0.6G </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 3000 ※ 5000 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> タイルカーベット 帯電防止床タイル </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アルミ合金ダイカスト製、スチール製又は複合材等 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 鋼製(仕上げ) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 20~30% </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 20~30% </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> パネル1枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上 ※ 図示による </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> なし あり(形式、施工箇所: 図示による) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 適用しない ※ 適用する(適用室:) </td> </tr> </table>	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	床パネルの材質	構造材の材質	配線取り出し	パネル	配線取り出し	開口	空調用吹き出し	ローロード性能	<ul style="list-style-type: none"> パネル構造 溝構造 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 450角以上600角以下 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 1.0G ※ 0.6G 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 3000 ※ 5000 	<ul style="list-style-type: none"> タイルカーベット 帯電防止床タイル 	<ul style="list-style-type: none"> アルミ合金ダイカスト製、スチール製又は複合材等 	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 鋼製(仕上げ) 	<ul style="list-style-type: none"> フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 20~30% 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 20~30% 	<ul style="list-style-type: none"> パネル1枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上 ※ 図示による 	<ul style="list-style-type: none"> なし あり(形式、施工箇所: 図示による) 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 適用しない ※ 適用する(適用室:) 	20	4 コンクリート舗装	<p>早強セメント ※ 使用しない</p> <p>※ 使用する</p> <p>溶接金網 ※ 使用しない</p> <p>※ 使用する</p> <p>試験 コンクリート版の厚さの試験</p> <table border="1"> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	行う	行わない	行う	行わない															
		寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	床パネルの材質	構造材の材質	配線取り出し	パネル	配線取り出し	開口	空調用吹き出し	ローロード性能																																			
<ul style="list-style-type: none"> パネル構造 溝構造 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 450角以上600角以下 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 1.0G ※ 0.6G 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 3000 ※ 5000 	<ul style="list-style-type: none"> タイルカーベット 帯電防止床タイル 	<ul style="list-style-type: none"> アルミ合金ダイカスト製、スチール製又は複合材等 	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 鋼製(仕上げ) 	<ul style="list-style-type: none"> フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 20~30% 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 20~30% 	<ul style="list-style-type: none"> パネル1枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上 ※ 図示による 	<ul style="list-style-type: none"> なし あり(形式、施工箇所: 図示による) 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 適用しない ※ 適用する(適用室:) 																																						
行う	行わない																																																
行う	行わない																																																
18	2 可動間仕切	<p>構造形式 (20.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>構成形式</th> <th>構成基材の種類</th> <th>パネル</th> <th>総厚さ(mm)</th> <th>遮音性 (db)</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> スタッド式(内蔵) スタッド式(露出) パネル式 スタッドパネル式 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アルミ スチール </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 木質系 スチール系 ガラス系 アルミニウム合金系 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 30以上 () ※ 60以上 () </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 0 12 20 28 36 </td> </tr> </table>	構成形式	構成基材の種類	パネル	総厚さ(mm)	遮音性 (db)	<ul style="list-style-type: none"> スタッド式(内蔵) スタッド式(露出) パネル式 スタッドパネル式 	<ul style="list-style-type: none"> アルミ スチール 	<ul style="list-style-type: none"> 木質系 スチール系 ガラス系 アルミニウム合金系 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 30以上 () ※ 60以上 () 	<ul style="list-style-type: none"> 0 12 20 28 36 	21	2 植栽基盤の整備	<p>土壌改良材</p> <table border="1"> <tr> <td>適用する</td> <td>適用しない</td> </tr> </table> <p>※ 建設発生土の良質土</p> <table border="1"> <tr> <td>客土</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 適用する(施工範囲 図示による)</p> <table border="1"> <tr> <td>種類</td> <td>※ コウライ芝</td> <td>ノシバ</td> </tr> </table> <p>図示による</p> <p>※ 引渡し日から1年</p> <table border="1"> <tr> <td>()</td> <td></td> </tr> </table>	適用する	適用しない	客土		種類	※ コウライ芝	ノシバ	()																										
		構成形式	構成基材の種類	パネル	総厚さ(mm)	遮音性 (db)																																											
<ul style="list-style-type: none"> スタッド式(内蔵) スタッド式(露出) パネル式 スタッドパネル式 	<ul style="list-style-type: none"> アルミ スチール 	<ul style="list-style-type: none"> 木質系 スチール系 ガラス系 アルミニウム合金系 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 30以上 () ※ 60以上 () 	<ul style="list-style-type: none"> 0 12 20 28 36 																																													
適用する	適用しない																																																
客土																																																	
種類	※ コウライ芝	ノシバ																																															
()																																																	
18	3 移動間仕切	<p>表面仕上げ材 (20.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>パネル表面仕上げ</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 鋼板 () </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 0.6 0.8 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> メラミン樹脂焼付 又はアクリル樹脂焼付 壁紙張り </td> </tr> </table> <p>パネル内に取り付ける建具</p> <table border="1"> <tr> <td>あり(※図示による)</td> <td>なし</td> </tr> </table>	材質	厚さ(mm)	パネル表面仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> 鋼板 () 	<ul style="list-style-type: none"> 0.6 0.8 	<ul style="list-style-type: none"> メラミン樹脂焼付 又はアクリル樹脂焼付 壁紙張り 	あり(※図示による)	なし	21	3 植栽及び屋上緑化工事	<p>1 植栽地の確認等</p> <p>土壌の水素イオン濃度(pH)試験</p> <table border="1"> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> <tr> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table> <p>土壌改良材</p> <table border="1"> <tr> <td>適用する</td> <td>適用しない</td> </tr> </table> <p>※ 建設発生土の良質土</p> <table border="1"> <tr> <td>客土</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 適用する(施工範囲 図示による)</p> <table border="1"> <tr> <td>種類</td> <td>※ コウライ芝</td> <td>ノシバ</td> </tr> </table> <p>図示による</p> <p>※ 引渡し日から1年</p> <table border="1"> <tr> <td>()</td> <td></td> </tr> </table>	行う	行わない	行う	行わない	適用する	適用しない	客土		種類	※ コウライ芝	ノシバ	()																								
		材質	厚さ(mm)	パネル表面仕上げ																																													
<ul style="list-style-type: none"> 鋼板 () 	<ul style="list-style-type: none"> 0.6 0.8 	<ul style="list-style-type: none"> メラミン樹脂焼付 又はアクリル樹脂焼付 壁紙張り 																																															
あり(※図示による)	なし																																																
行う	行わない																																																
行う	行わない																																																
適用する	適用しない																																																
客土																																																	
種類	※ コウライ芝	ノシバ																																															
()																																																	
18	4 トイレブース	<p>表面材の種類 (20.2.5)</p> <table border="1"> <tr> <th>表面材の種類</th> <th>脚部形状</th> <th>形状</th> <th>ドアエッジ</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※幅木タイプ </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 標準 R </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 ステンレス製 表面材と同等 </td> </tr> </table>	表面材の種類	脚部形状	形状	ドアエッジ	<ul style="list-style-type: none"> ※メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 	<ul style="list-style-type: none"> ※幅木タイプ 	<ul style="list-style-type: none"> 標準 R 	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 ステンレス製 表面材と同等 	21	2 鋼鉄製ふた	<p>鋼鉄製マンホールふた (21.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 水封形 簡易密閉形(パッキン形) 密閉形(テーパー、パッキン形) 中ふた付き密閉形(テーパー、パッキン形) RS-VU </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> T-2用 T-6用 T-20用 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 有り 無し </td> </tr> </table> <p>上記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。</p> <p>※ 表面には用途別の標準文字付きとする。</p>	種類	適用荷重	備 考	<ul style="list-style-type: none"> 水封形 簡易密閉形(パッキン形) 密閉形(テーパー、パッキン形) 中ふた付き密閉形(テーパー、パッキン形) RS-VU 	<ul style="list-style-type: none"> T-2用 T-6用 T-20用 	<ul style="list-style-type: none"> 有り 無し 																														
		表面材の種類	脚部形状	形状	ドアエッジ																																												
<ul style="list-style-type: none"> ※メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 	<ul style="list-style-type: none"> ※幅木タイプ 	<ul style="list-style-type: none"> 標準 R 	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウム製 ステンレス製 表面材と同等 																																														
種類	適用荷重	備 考																																															
<ul style="list-style-type: none"> 水封形 簡易密閉形(パッキン形) 密閉形(テーパー、パッキン形) 中ふた付き密閉形(テーパー、パッキン形) RS-VU 	<ul style="list-style-type: none"> T-2用 T-6用 T-20用 	<ul style="list-style-type: none"> 有り 無し 																																															
18	5 視覚障害者用床タイル	<p>種類 (20.2.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>幅(mm)</th> <th>取付工法</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 35 () </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※接着工法 () </td> </tr> </table>	種類	幅(mm)	取付工法	<ul style="list-style-type: none"> ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 35 () 	<ul style="list-style-type: none"> ※接着工法 () 	21	3 グレーチング	<p>材質 (21.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>形式</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>メインバーピッチ</th> <th>垂れ止め(付着量)</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 鋼製 ホルルふた ステンレス製 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 受伸付き、ボルト固定 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 溝ふた(横断用) 溝ふた(側溝用) 橋ふた U字溝用 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 歩行用 T-2用 T-6用 T-14用 T-20用 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 細め () 普通目 細め </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> () </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 凹凸形 () 平形 </td> </tr> </table>	材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	垂れ止め(付着量)	上面形状	<ul style="list-style-type: none"> 鋼製 ホルルふた ステンレス製 	<ul style="list-style-type: none"> 受伸付き、ボルト固定 	<ul style="list-style-type: none"> 溝ふた(横断用) 溝ふた(側溝用) 橋ふた U字溝用 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行用 T-2用 T-6用 T-14用 T-20用 	<ul style="list-style-type: none"> 細め () 普通目 細め 	<ul style="list-style-type: none"> () 	<ul style="list-style-type: none"> 凹凸形 () 平形 																								
		種類	幅(mm)	取付工法																																													
<ul style="list-style-type: none"> ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 35 () 	<ul style="list-style-type: none"> ※接着工法 () 																																															
材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	垂れ止め(付着量)	上面形状																																											
<ul style="list-style-type: none"> 鋼製 ホルルふた ステンレス製 	<ul style="list-style-type: none"> 受伸付き、ボルト固定 	<ul style="list-style-type: none"> 溝ふた(横断用) 溝ふた(側溝用) 橋ふた U字溝用 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行用 T-2用 T-6用 T-14用 T-20用 	<ul style="list-style-type: none"> 細め () 普通目 細め 	<ul style="list-style-type: none"> () 	<ul style="list-style-type: none"> 凹凸形 () 平形 																																											
18	6 階段滑り止め	<p>材質 (20.2.7)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>幅(mm)</th> <th>取付工法</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 35 () </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※接着工法 () </td> </tr> </table>	材質	幅(mm)	取付工法	<ul style="list-style-type: none"> ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 35 () 	<ul style="list-style-type: none"> ※接着工法 () 	21	4 埋戻し土	<p>※ B種 ()</p>																																						
		材質	幅(mm)	取付工法																																													
<ul style="list-style-type: none"> ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 35 () 	<ul style="list-style-type: none"> ※接着工法 () 																																															
18	7 床目地障	<p>床仕上げの異なる箇所には目地障を入れる。 (20.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>取付方法</th> <th>形状</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ほうろう白板 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 直付け ※ 平面受け付き ※ 曲面受け付き </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 平面 ※ マーキングペン </td> <td></td> </tr> </table>	種類	取付方法	形状	備考	<ul style="list-style-type: none"> ほうろう白板 	<ul style="list-style-type: none"> 直付け ※ 平面受け付き ※ 曲面受け付き 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 平面 ※ マーキングペン 		21	1 路床	<p>路床の材料 (22.2.2~3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 盛土 遮断層 凍上抑制層 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> A種 ※ B種 C種 D種 建設汚泥から再生した処理土 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 再生クラッシュチャラン クラッシュチャラン 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) </td> </tr> </table> <p>試験</p> <table border="1"> <tr> <td>砂の粒度試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> <tr> <td>路床度の支持力比(CBR)試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> <tr> <td>路床締固め度の試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	種類	材料	<ul style="list-style-type: none"> 盛土 遮断層 凍上抑制層 	<ul style="list-style-type: none"> A種 ※ B種 C種 D種 建設汚泥から再生した処理土 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 再生クラッシュチャラン クラッシュチャラン 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 	砂の粒度試験	行う	行わない	路床度の支持力比(CBR)試験	行う	行わない	路床締固め度の試験	行う	行わない																							
		種類	取付方法	形状	備考																																												
<ul style="list-style-type: none"> ほうろう白板 	<ul style="list-style-type: none"> 直付け ※ 平面受け付き ※ 曲面受け付き 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 平面 ※ マーキングペン 																																															
種類	材料																																																
<ul style="list-style-type: none"> 盛土 遮断層 凍上抑制層 	<ul style="list-style-type: none"> A種 ※ B種 C種 D種 建設汚泥から再生した処理土 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 再生クラッシュチャラン クラッシュチャラン 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 																																																
砂の粒度試験	行う	行わない																																															
路床度の支持力比(CBR)試験	行う	行わない																																															
路床締固め度の試験	行う	行わない																																															
18	8 手すり	<p>材質 (20.2.9)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>表面仕上げ</th> <th>直径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> タモ ステンレスパイプ 鋼製パイプ ビニル製ハンドレール </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> クリアラッカー HL EP-G SOP </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 35 45 () </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 1段手すり 2段手すり () <p>(指づめ防止材共)</p> </td> </tr> </table>	材質	表面仕上げ	直径(mm)	備考	<ul style="list-style-type: none"> タモ ステンレスパイプ 鋼製パイプ ビニル製ハンドレール 	<ul style="list-style-type: none"> クリアラッカー HL EP-G SOP 	<ul style="list-style-type: none"> 35 45 () 	<ul style="list-style-type: none"> 1段手すり 2段手すり () <p>(指づめ防止材共)</p>	21	2 路盤	<p>路盤の材料 (22.3.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 砕石 C-40 ※ 再生クラッシュチャラン RC-40 クラッシュチャラン鉄鋼スラグ CS-40 <p>試験</p> <table border="1"> <tr> <td>路床締固め度の試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	路床締固め度の試験	行う	行わない																																	
		材質	表面仕上げ	直径(mm)	備考																																												
<ul style="list-style-type: none"> タモ ステンレスパイプ 鋼製パイプ ビニル製ハンドレール 	<ul style="list-style-type: none"> クリアラッカー HL EP-G SOP 	<ul style="list-style-type: none"> 35 45 () 	<ul style="list-style-type: none"> 1段手すり 2段手すり () <p>(指づめ防止材共)</p>																																														
路床締固め度の試験	行う	行わない																																															
18	9 ホワイトボード	<p>種類 (20.2.10)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>取付方法</th> <th>形状</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ほうろう白板 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 直付け ※ 平面受け付き ※ 曲面受け付き </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 平面 ※ マーキングペン </td> <td></td> </tr> </table>	種類	取付方法	形状	備考	<ul style="list-style-type: none"> ほうろう白板 	<ul style="list-style-type: none"> 直付け ※ 平面受け付き ※ 曲面受け付き 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 平面 ※ マーキングペン 		21	2 路盤	<p>路盤の材料 (22.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 砕石 C-40 ※ 再生クラッシュチャラン RC-40 クラッシュチャラン鉄鋼スラグ CS-40 <p>試験</p> <table border="1"> <tr> <td>路床締固め度の試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	路床締固め度の試験	行う	行わない																																	
		種類	取付方法	形状	備考																																												
<ul style="list-style-type: none"> ほうろう白板 	<ul style="list-style-type: none"> 直付け ※ 平面受け付き ※ 曲面受け付き 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 平面 ※ マーキングペン 																																															
路床締固め度の試験	行う	行わない																																															
18	10 煙突ライニング	<p>煙突用成形ライニング材 (20.2.11)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用安全使用温度</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 煙突用成形ライニング材 () キャスタブル耐火材 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 400℃ 650℃ </td> </tr> </table> <p>工法</p> <table border="1"> <tr> <td>こて押え</td> <td>()</td> </tr> </table>	種類	適用安全使用温度	<ul style="list-style-type: none"> 煙突用成形ライニング材 () キャスタブル耐火材 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 400℃ 650℃ 	こて押え	()	21	2 路盤	<p>路盤の材料 (22.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 砕石 C-40 ※ 再生クラッシュチャラン RC-40 クラッシュチャラン鉄鋼スラグ CS-40 <p>試験</p> <table border="1"> <tr> <td>路床締固め度の試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	路床締固め度の試験	行う	行わない																																			
		種類	適用安全使用温度																																														
<ul style="list-style-type: none"> 煙突用成形ライニング材 () キャスタブル耐火材 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 400℃ 650℃ 																																																
こて押え	()																																																
路床締固め度の試験	行う	行わない																																															
18	11 ブラインド	<p>形式 (20.2.12)</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>※ 横型ブラインド</th> <th>※ 縦型ブラインド</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ キヤ式 ※ コード式 ※ スラットの幅 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ コード式 ※ 操作棒式 ※ 2本操作コード方式 ※ 25 ※ 35 ※ 80 ※ 100 </td> <td></td> </tr> </table>	形式	※ 横型ブラインド	※ 縦型ブラインド	<ul style="list-style-type: none"> ※ キヤ式 ※ コード式 ※ スラットの幅 	<ul style="list-style-type: none"> ※ コード式 ※ 操作棒式 ※ 2本操作コード方式 ※ 25 ※ 35 ※ 80 ※ 100 		21	2 路盤	<p>路盤の材料 (22.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 砕石 C-40 ※ 再生クラッシュチャラン RC-40 クラッシュチャラン鉄鋼スラグ CS-40 <p>試験</p> <table border="1"> <tr> <td>路床締固め度の試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	路床締固め度の試験	行う	行わない																																			
		形式	※ 横型ブラインド	※ 縦型ブラインド																																													
<ul style="list-style-type: none"> ※ キヤ式 ※ コード式 ※ スラットの幅 	<ul style="list-style-type: none"> ※ コード式 ※ 操作棒式 ※ 2本操作コード方式 ※ 25 ※ 35 ※ 80 ※ 100 																																																
路床締固め度の試験	行う	行わない																																															
18	12 ロールスクリーン	<p>材質 (20.2.13)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>操作方式</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ ポリエステル ※ 綿 ※ ガラス繊維 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ チェーン式 ※ プルコード式 ※ 電動式 </td> <td></td> </tr> </table>	材質	操作方式	備考	<ul style="list-style-type: none"> ※ ポリエステル ※ 綿 ※ ガラス繊維 	<ul style="list-style-type: none"> ※ チェーン式 ※ プルコード式 ※ 電動式 		21	2 路盤	<p>路盤の材料 (22.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 砕石 C-40 ※ 再生クラッシュチャラン RC-40 クラッシュチャラン鉄鋼スラグ CS-40 <p>試験</p> <table border="1"> <tr> <td>路床締固め度の試験</td> <td>行う</td> <td>行わない</td> </tr> </table>	路床締固め度の試験	行う	行わない																																			
		材質	操作方式	備考																																													
<ul style="list-style-type: none"> ※ ポリエステル ※ 綿 ※ ガラス繊維 	<ul style="list-style-type: none"> ※ チェーン式 ※ プルコード式 ※ 電動式 																																																
路床締固め度の試験	行う	行わない																																															

22 その他

1 揮発性有機化合物の室内濃度の測定
1)対象揮発性有機化合物(VOC)
2)測定室
3)測定方法

2 県産材・地域材の活用
1)木工事
2)木造工事
3)石工事
4)その他()工事

下記の室内揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督員に報告する。

- ホルムアルデヒド
- アセトアルデヒド
- トルエン
- キシレン
- パラジクロロベンゼン
- スチレン
- エチルベンゼン

※簡易測定法による。

VOCの種類	測定方法
※ホルムアルデヒド	検知紙法・検知管法・定電位電解法・吸光度法・パッシブ型採取
※トルエン※キシレン※スチレン※エチルベンゼン	パッシブ型採取

※厚生労働省の標準的測定方法による。

VOCの種類	採取方法	測定方法
ホルムアルデヒド	DNPH誘導体化固相吸着/溶媒抽出	高速液体クロマトグラフィー
アセトアルデヒド	固相吸着/溶媒抽出法	()
トルエン	固相吸着/溶媒抽出法	()
キシレン	固相吸着/加熱脱着法	()
パラジクロロベンゼン	容器採取法	()
スチレン	()	()
エチルベンゼン	()	()

県産材を使用部位及び樹種については下記による。(代用樹種は使用できない)
使用部位() 樹種()
地域材を使用する部位及び樹種については下記による。
使用部位() 樹種()

県産材を使用部位及び樹種については下記による。(代用樹種は使用できない)
使用部位() 樹種()
地域材を使用する部位及び樹種については下記による。
使用部位() 樹種()

県産材を使用部位及び石材については下記による。(代用石材は使用できない)
使用部位() 石材()
地域材を使用する部位及び石材については下記による。
使用部位() 石材()

県産材を使用部位及び材については下記による。(代用材は使用できない)
使用部位() 材()
地域材を使用する部位及び材については下記による。
使用部位() 材()

24 施工条件

1 工程関係
2 施工時期
3 他機関との協議
4 工事用地
5 公害対策
6 安全対策
7 その他

※調整無し
・別途工事との工程調整が必要有り
調整項目
・資材等の流用
・施工順序の調整
・仮設及び工事用道路等の調整
・建設機械等の調整
・図示による
・その他()

※制限無し
・制限有り
・制限する工程名()
・施工時期(土日祝日のみ) 図示による
・施工時間(時～時) 図示による
・施工方法()

・有(年 月 日 別紙のとおり)
・無
・有(: ~ : 別紙のとおり)
・無

協議が必要な機関名()
協議完了見込み時期()

・下記以外は図示等による。
(1) 工事車両の駐車場 (※構内 ())
(2) 資材置き場 (※構内 ())
(3) 建設発生土(埋戻し、盛り土用)の仮置場所 (※構内 ())

・仮設ヤード ※無し ・有り(※図示による ())

※施工方法の制限無し
・施工方法の制限有り
・騒音 ・振動 ・水質 ・粉じん ・排出ガス ・その他()
・施工方法等
・指定工法名() ・別途協議による ・図示による

・事業損失防止に関する調査
・騒音測定 ・振動測定 ・水質調査 ・近隣家屋の事前・事後調査 ・地盤沈下測定
・その他()
・調査箇所
・図示による ・別途協議
・調査時期
・図示による ()

・近接公共施設等に対する制限
・近接公共施設名等 (鉄道 ・ 電気 ・ ガス ・ 水道 ・ 電話 ・ その他())
・制限を受ける工種 ()

※敷地内は禁煙とし、喫煙場所は別途協議による。
※当該工事現場を使用した技術研修会の開催に関する依頼を受けた場合はこれに協力するものとする。

24 施工条件

別表-1の記入上の注意:※を基本とし、他の発注工種が適用する場合には・を○に変え、※を・に変えること。
また、空欄を適用する場合には○を記入し、※を・に変えること。]

別表-1 設備工事との工事区分表

機器の基礎	電気関係	機械関係	工事内容			
			建築工事	電気設備工事	機械設備工事	その他
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎	屋内	※	・	※
			屋外	※	・	※
			屋上	※	・	※
			自家発電機の基礎(アンカーボルトを除く)	※	・	※
			テレビアンテナ基礎(#)	※	・	※
	機械関係	自家発電機の基礎(アンカーボルトを除く)	運管針の基礎(#)	※	・	※
			屋内設備(架台、アンカーボルトを除く)	※	・	※
			屋上設備(#)	※	・	※
			屋外設備(#)	※	・	※
			架台、アンカーボルト	※	・	※
開口部	開口部	特記した基礎	※	・	※	
		梁、床、壁	※	・	※	
		貫通スリーブ	※	・	※	
		梁、床、壁	※	・	※	
		貫通型枠	※	・	※	
		軽重量下地、壁、天井ボード類の切込	※	・	※	
		埋込形分電盤、端子盤等の仮枠	※	・	※	
		埋込形分電盤、端子盤等の仮枠	※	・	※	
		埋込形分電盤、端子盤等の仮枠	※	・	※	
		埋込形分電盤、端子盤等の仮枠	※	・	※	
点検口	※	・	※			
外部取付ガレリ	※	・	※			
湯沸室のフード	※	・	※			
換気扇の取付枠	※	・	※			
流し台	※	・	※			
排水トラップ共	※	・	※			
防油堤	※	・	※			
床下水槽のマンホールふた	※	・	※			
雨水	※	・	※			
汚水、雑排水	※	・	※			
雨水立管(たてどい)	※	・	※			
トイレ手すり	※	・	※			
化粧鏡(衛生器具まわり)	※	・	※			
はめ込形洗面器用カウンター(前板共)	※	・	※			
ガスボンベ転倒防止用の鎖	※	・	※			
自動ドア及び電動シャッターなどの制御部と操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ	※	・	※			
防火扉レリーズ	※	・	※			
電極棒	※	・	※			
配線ビッド及びふた	※	・	※			
機器などへの接続(1次側)	※	・	※			
機器付属の制御盤以降の2次側の配線配管(接地共)	※	・	※			
機器付属の制御盤への電源供給配管配線	※	・	※			
自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り配管配線	※	・	※			
自動制御盤と動力盤との操作回路の渡り配管配線	※	・	※			
天井吊り形FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器と付属操作スイッチの埋込ボックスと、その渡り配管(接地共)	※	・	※			
天井吊り形FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器と付属操作スイッチと、その渡り配線	※	・	※			
個別パッケージの室内機、室外機の渡り配線(接地共)	※	・	※			
煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線	※	・	※			
小使器具節水装置の制御盤以降の2次側の配管配線	※	・	※			
電気錠	※	・	※			
TENキー及び制御盤	※	・	※			
エレベーター出入口三方枠(金属製)	※	・	※			
エレベーター出入口三方枠(石製)	※	・	※			
シャワーユニット	※	・	※			
バスユニット	※	・	※			
洗濯機パン	※	・	※			
ボード・Tバー	※	・	※			
照明ライン設備プレート	※	・	※			
空調ライン設備プレート	※	・	※			
消火器ボックス	※	・	※			
自動制御設備関連のインバーター装置及び配線	※	・	※			
自動制御設備関連のインバーター装置(別途、盤に組込む)	※	・	※			

23 東日本大震災の復興・復興事業における積算方法等

1 資材調達
2 労働者確保

次の資材については、以下の調達地域等から調達することを想定しているが、安定的な確保を図るために、当該調達地域等以外から調達せざるを得ない場合は、事前に監督員と協議するものとする。また、購入費用及び輸送費等に要した費用について、証明書類(実際の取引伝票等)を監督員に提出するものとし、その費用について設計変更の対象とする。

資材名	規格	調達地域等

(1) 本工事は元請業者が必要とする共通費における、「共通仮設費のうち仮設建物費」及び「現場管理費のうち労働管理費」の下記に示す費用(以下「実績変更対象間接費」という。)について、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、建築関係工事積算基準(福島県土木部)に基づき金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、事前に監督員と協議を行い、協議の結果により実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて最終積算変更時点で設計変更する(労働者確保に関する積算方法の試行工事)である。
当費(共通仮設費における仮設建物費):労働者送迎費・宿泊費・借上費
労働管理費:募集及び解散に要する費用・資金以外の食事・通勤費等に要する費用・福利厚生等に要する費用・雑工費に含まれない作業用具及び作業被服等の費用・安全・衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用・労災保険法による給付以外に災害時に事業主が負担する費用

(2) 本工事の予定価格の算出の基礎とした設計額(建築関係工事積算基準に基づき算出した額)における実績変更対象間接費について、その金額または率に占める割合は次のとおりである。
1) 共通仮設費に占める、実績変更対象間接費(当費):設計書に積上げ計上された金額
2) 現場管理費に占める、実績変更対象間接費(労働管理費)の割合: %

(3) 受注者は、実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて設計変更を希望する場合は、実績変更対象間接費に係る費用の内訳を記載した「労働者確保に係る実績報告書(様式1)」及び実績変更対象間接費について実際に支払った全ての証明書類(領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など。)を監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。

(4) 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。

(5) 発注者は、実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、受注者が実績変更対象工事費について実際に支払った額のうち、証明書類において確認された費用から、建築関係工事積算基準に基づき算出した額における実績変更対象間接費を差し引いた費用を加算して算出する。
なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても、提出された証明書類をもって設計変更を行うものとする。

(6) 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び入札参加資格制限等の措置を行う場合がある。

(7) 受注者は、実績変更対象間接費にかかる設計変更について疑義が生じた場合は、監督員と協議するものとする。

25	現場環境改善 → 快適トイレの設置	1 内容	<p>① 受注者は、現場環境改善の一環として、工事場毎に設置するトイレのうち男女別に1基ずつ以下の(1)～(11)の仕様をすべて満たす快適トイレを設置することとする。ただし、快適トイレの設置が困難な場合は監督員と協議する。(12)～(17)の仕様については、満たしていればより快適に出来ると思われる項目であり、必須ではない。</p> <p>【快適トイレに求める標準仕様(全項目必須)】</p> <p>(1) 洋式便座 (2) 水洗機能(簡易水洗、し尿処理装置付き含む) (3) 臭い逆流防止機能(フロッパー機能) (必要に応じて消臭剤等活用し臭い対策をとること) (4) 容易に開かない施錠機能(二重ロック等) (二重ロックの備えがなくても容易に開かないことを製造者が説明できるもの) (5) 照明設備(電源がなくても良いもの) (6) 衣類掛け等のフック付、又は、荷物置き場設備機能(耐荷重5kg以上)</p> <p>【快適トイレとして活用するために備える付属品(全項目必須)】</p> <p>(7) 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示 (8) 入口が目隠しの設置(男女別トイレ間も含め入口が直接見えなような配置等) (9) サニタリーボックス(女性専用トイレに必ず設置) (10) 鏡付きの洗面台 (11) 便座除菌クリーナー等の衛生用品</p> <p>【推奨する仕様、付属品(任意)】</p> <p>(12) 室内寸法900mm×900mm以上(面積A=0.81m²以上ではない。幅・奥行き各900mm以上) (13) 換気装置(機能を含む) (14) 着替え台 (15) 臭気対策機能の多重化 (16) 窓などの室内温度の調整が可能な設備 (17) 小物置き場等(トイレトペーパー予備置き場等)</p> <p>② 受注者は、快適トイレの設置にあたっては、①の内容を満たす参考見積書(標準仕様、付属品の内訳を明示したものを添付し、規格・基数等の詳細について監督員と協議の上決定し、快適トイレ仕様チェックシート及び資料等(カタログなど)を施工計画書提出に合わせ提出する。</p> <p>③ 現場事務所等の屋内に設けるトイレには適用しない。</p>	27	<ul style="list-style-type: none"> 1 準備期間確保工事 2 フレックス工事 3 着工届の提出 4 コリンズの登録 5 福島県元請・下請関係保道正化指導要綱関係 6 その他 	<p>準備期間確保工事における事務処理要領 この工事は準備期間確保工事であり、受注者は契約締結日から準備期間(〇〇日間)内に着工日を任意に設定できる。なお、契約の締結日までに別紙様式により、着工日(工事の始期)を通知すること。また、契約締結後に、受注者の準備が整った場合は、協議のうえ、工期に係る契約を変更することにより、工事に着手することができるものとする。</p> <p>フレックス工事執行要領 この工事はフレックス工事であり、受注者は発注者が示した工期までの間で、工事の始期及び終期を任意に設定できる。なお、契約の締結日までに別紙様式により、工事の始期及び終期を通知すること。</p> <p>着工届は、着工後速やかに提出すること。</p> <p>受注時の「コリンズ登録」は、着工後に監督員の確認を受け、着工後、速やかに登録機関に登録申請しなければならない。</p> <p>施工体制台帳については、福島県元請・下請関係保道正化指導要綱第 10 に基づき、提出すること。</p> <p>・ 準備期間内は、主任技術者又は監理技術者の配置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入や仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、準備期間内に行う準備は受注者の責任により行うものとする。(準備期間確保工事)</p> <p>・ 工事の始期までの着工猶予期間は、主任技術者又は監理技術者の配置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入や仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、着工猶予期間中に行う準備は受注者の責任により行うものとする。(フレックス工事)</p>			
		2 設置に要する費用	<p>快適トイレに要する費用については、当初契約時は計上していない。月額支出実態がわかる資料により、監督員と協議の上、51,000円/基・月を上限とし、設計変更の対象とする。ただし、運搬費・設置費等は対象外とし、従来品相当額(10,000円/基・月)は差し引くものとする。なお、設計変更数量の上限は、男女別で各1基ずつ合計2基までとする。</p>	28	<ul style="list-style-type: none"> 1 再生資源利用計画書 2 再生資源利用促進計画書 	<p>受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令等に基づき、再生資源利用計画書を作成し、施工計画書に含め監督員に写しを提出しなければならない。また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令等に基づき、再生資源利用促進計画書を作成し、施工計画書に含め監督員に写しを提出しなければならない。また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。</p>			
26	特別措置に基づく市場単価の補正	1 内容	<p>※ 本工事は、時間外労働時間を短縮するために必要な費用を単価に反映させるため、市場単価及び補正市場単価の補正をする。</p>	29	1 内容	<p>※総合評価方式(標準型・簡易型)における技術提案書に記載された事項の実施状況の確認について</p> <p>総合評価方式において、受注者が技術提案書に記載した事項の具体的な実施方法等を、施工計画書に「総合評価方式における技術提案事項の実施計画」として記載し、提出しなければならない。なお、施工計画書に記載された「総合評価方式における技術提案事項の実施計画」については、実施状況について発注者の確認を受けなければならない。確認の方法については、「土木工事共通仕様書 Ⅲ編 2.様式 第8号様式(確認書)」を用いて確認することを原則とする。また、技術提案事項の履行が確認できない場合は、工事成績評定において減点とする場合があるとともに、入札参加資格制限措置の対象となる場合がある。</p>			
		2 基準	<p>※ 令和4年度の公共工事設計労務単価における特別措置を踏まえた建築関係工事に適用する市場単価の運用について</p>						

 福島県建築関係工事特記仕様書	福島県〇〇建設事務所建築住宅課 電話〇〇〇-〇〇〇〇 FAX〇〇〇-〇〇〇〇 住所 〇〇市××町△△1-1		建築士事務所名	工事名称	図面番号 建築工事特記仕様書(9)
	設計年: 令和〇〇年〇〇月	設計者氏名	印	図面名称	